

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2026年 3-4月

「神のみかたちを回復する」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「弟子たちにとって非常に価値のある教訓」 3

朝のマナ

「神のみかたちを回復する」 4
Restoring the Image of God

力を得るための食事

「山芋のかば焼き風」 68
レシピ

お話コーナー

「天へと歩いて入った人 (I)」 70
聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2026年2月1日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Joe Maniscalco on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

弟子たちにとって非常に価値のある教訓

彼らが町につくとまもなく、宮の納入金を集める人がペテロのところへやってきて、「あなたがたの先生は宮の納入金を納めないのか」とたずねた(マタイ 17:24)。…

ペテロは、集金人の質問の中に、宮に対するキリストの忠誠心を問題にするようなほめかしがあるのを感じた。…イエスに相談もしないで、イエスは納入金を納められるだろうと、いそいで答えた。…

ほんのちょっと前に、ペテロはイエスを神のみ子として認めた。だがいま彼は、主がどういっておかたであるかを公表する機会を失った。…

ペテロが家の中にはいって行くと、救い主はいま起ったことにはふれないで、「シモン、あなたはと思うか。この世の王たちは税や貢をだれから取るのか。自分の子からか、それとも、ほかの人たちからか」とおたずねになった(マタイ 17:25)。ペテロは、「ほかの人たちからです」と答えた。するとイエスは「それでは、子は納めなくてもよいわけである」と言われた(マタイ 17:26)。…

もしイエスが、抗議もしないで納入金を納められたら、イエスは、彼らの主張が正当であることを実質的に公認されたことになり、そのことによってご自分の神性を否定されたことになっただろう。しかしイエスは、要求に応ずることはよいとされたが、彼らの要求の根拠は否定された。納入金を納める方法を講ずるにあたって、イエスはご自分の神性についての証拠をお与えになった。イエスは神と一つであり、したがって王国の単なる臣民として納入金を納められる義務はないことが明らかにされた。

イエスはペテロにこうお命じになった。「海に行つて、つり針をたれなさい。そして最初につれた魚をとって、その口をあけると銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい」(マタイ 17:27)。…

イエスは、納入金を納める義務がないことを明らかにされたが、この問題についてユダヤ人と論争を始められなかった。もしそうされたら、彼らはイエスのことばをまちがって解釈し、これをイエス反対の材料にしただろう。納入金を納めないことによって、彼らを怒らせることがないように、イエスは正当に言えばする必要のないことをされた。この教訓は弟子たちにとって非常に価値のあるものとなるのだった。まもなく宮の奉仕に対する彼らの態度に目立った変化が起ろうとしていた。そこでキリストは、不必要に既定の秩序に反するような立場に立たないようというところをお教えになった。できるだけ彼らは、彼らの信仰をまちがって解釈されるような機会を避けるべきであった。クリスチャンは、真理の原則を一つでも犠牲にしてはならないが、可能な場合にはいつでも、論争を避けるべきである。(各時代の希望中巻 207-210)

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



3-4月

3月 きれいな新しい心を求めて

4月 自由にする神の律法

わたしの献身はどれほど深いか

「人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル記上 16:7)

職業や専門職が何であろうと、一人ひとりが神のみ事業を自分の最も重要な関心事とすべきである。彼は主の働きを前進させるために自分のタレントを用いるだけでなく、この目的のために自分の能力を培わなければならない。……

神の栄光と魂の益のために真理を前進させようと努める者は、人の尊敬や自分自身の安楽、興味、名誉に関係なく—そのような人は学識や雄弁がなくても高く評価されるべきである。彼は神の貴族である。……

審判を行う者が席に着き、かずかずの書き物が開かれるとき、多くの驚くべき事柄が発覚するであろう。そのとき人々は人間の目や有限な判断に映っていたようには映らない。秘密の罪がすべての者に公然とあらわにされる。心の暗い部屋に隠されていた動機や意図が明らかにされる。外面的には神をあがめ、人に善をなす願いだけであると言われていたところに、入念に計画していた野心、利己的な目的が見える。そのとき何が暴露されるであろうか。純潔な動機と真実で気高い目的の人々が、今は軽視され、無視され、中傷され、嫌われるかもしれないが、そのとき彼らはあるがままに現れ、神の賞賛で榮譽を受ける。偽善的で野心的な教師は、今は人に誉めそやされ、高められているかもしれないが、心の秘密を知っておられる神は人をだますような覆いをはぎとり、彼らをおもむくがままに見せる。どの偽善者も仮面をはがされ、中傷されたどの信者も義認される。……

キリストのみ名をととなえ、このお方の記章を身につけている者がみなキリストのものというわけではない。イエスは「わたしに従ってきなさい」と仰せになる。罪深い習慣にふけり、世の軽薄な言動を楽しむ者はキリストの子であろうか。わたしたちは彼らの歩む道に救い主の足跡を見ることができようか。……

わたしたちのご自分の意志ではなく、御父の意志をなそうと努めるお方の歩みに従っているであろうか。もしわたしたちにキリストの御霊がなければ、わたしたちはこのお方のものではない。わたしたちは二人の主人に仕えることはできない。

(レビュー・アンド・ハルト 1884年1月1日)

3月2日

わたしたちの時代の徴候

「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。」(創世記 6:5)

ノアの時代の目立った特徴は住民の猛烈な世俗であった。彼らは食べ、飲み、植え、建て、めとり、とつぎなどしていた。これらのことはそれ自体罪ではなく、律法にかなっていたが、不節制なまで過度にふけたのである。食欲は健康と理性を犠牲にしてほしいままにされた。自分たちの罪深い欲望にふけり続けるこのことが彼らを墮落させ、彼らのもとに地を汚した。増大したその同じ悪が今日わたしたちの世界に存在する。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1878年1月3日)

ノアは洪水前の人々に与えるようにとメッセージを与えられた。しかし彼らは彼の警告をさげすんだ。そのように今日神が世に与えるようにと送っておられるメッセージは拒まれる。しかしこのメッセージは与えられなければならない。神の民はその宣布のためにほかのあらゆる関心を二次的にしなければならない。……

キリストは利己的な世界を、利己心の確かな結果から救うために死なれた。このお方は全世界のために愛とあわれみと同情のうちにご自分の心を開かれ、ご自分のところに来て、完全で無償の許しを受けるようにと墮落した人類をお招きになる。このお方の品性は、天の宇宙の前に、いつさいの利己心のしみなく立っている。このお方はご自身の心のうちに宿っている慈悲心を男女にもたらすために、完全な犠牲を払われた。キリストが彼らを愛して祈られるのと同じように、人々が自分たちの同胞を愛するようにと彼らを導き、その思いと心を印象づけるためにご自分の聖霊をお送りになった。……

真理を信じ、世のために帯びるようにと神がわたしたちに与えておられるメッセージの重要さに気がついていると公言するすべての者にわたしは嘆願する。次々と町の中で自己犠牲の働きがなされねばならず、州につぐ州が照らされなければならない。真理が燃える明かりのように進んでいくべきである。神と神が遣わされたイエス・キリストを知っていると公言する者は、世の冷たく利己的な行為に陥ってはならない。彼らの熱意は消えてはならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1902年1月7日)

自己欺瞞からの救出

「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。『主であるわたしは心を探り、思いを試みる。おのおのに、その道にしたがひ、その行いの実によって報いをするためである。』」(エレミヤ 17:9,10)

わたしたちの時代に広くゆきわたっている精神は、不信心と背教の精神、すなわち真理の知識ゆえに啓蒙されているかのようでありながら、その実もつとも盲目的な憶測のうちにある精神である。神のはっきりとしたみ言葉とこのお方の御霊の証に反対する精神がある。神の表された知恵にまぎって単なる人間の理論を偶像崇拝的に高める精神がある。(教会への証 5 卷 79)

わたしたちは真理を聞いて信じることができるが、もしわたしたちがキリストのみ言葉を日々実践し行う者でなければ、砂の上に家を建てた愚かな者と同じである。(ビュー・アソド・ハルド 1885 年 12 月 22 日)

墮落した人間がキリストのご品性をはっきりと理解すればするほど、自分自身を信頼しなくなり、しみのない贖い主の生涯を特徴づけたそれらのことと比べて自分の働きますます不完全に思えるようになる。(ライフ・スケッチ 84)

神のご品性を表すために、またわたしたちが見せかけのキリスト教によって自分自身や教会や世を欺かないために、個人的に神と親しくならなければならない。もしわたしたちが神と親しい交わり持っているなら、会衆に一度も説教をしたことがなくてもこのお方の聖職者である。(教会への証 6 卷 13)

もしわたしたちがキリストを代表するものであるなら、キリストのみ働きを行う。わたしたちのだれも、遺伝として持っており、教育で強められた品性のゆがみ、キリスト教徒に値しない特性を自分の宗教生活に持ち込むことができると考えて、自分を欺かないようにしましょう。贖いの計画を通じて、神は一つ一つの罪深い特性を抑え、どれほど強くてもどの誘惑にも抵抗する方法を備えておられる。……

わたしたちが神のみ働きの中で、何も成し遂げなくなった理由は、良心に訴えるに当たってイエスからの霊と命をもつと必要としているということである。わたしたち自身のかたくなな心がこのお方の愛によって溶かされなければならない。これだけが無関心という魔力を破り、魂に警報を発し、人々に自分がどこに立っているかをよく考えさせることができるのである。(ビュー・アソド・ハルド 1885 年 12 月 22 日)

3月4日

不信仰の危険

「兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者があるかも知れない。」(ヘブル 3:12)

真の道徳上の価値は、悪いことを考えたり、話したりすることによって、あるいは他人を軽視することによって、自らの立場を確立しようとはしない。すべて不信仰を伴ったうらやみ、妬み、悪口はすべて神の子らから捨てさらなければならぬ。(ビュー・アンド・ハルド 1897年9月4日)

わたしたちはキリストの時代の民よりも、今日はるかに多くの危険の中にいる。主はご自分が任じられた使者を通して語っておられるが、同じ不信仰が現わされている。(エレン・G・初仆 1888年原稿 398)

すべての者に働きの中で自己に仕え、自己を喜ばせることをどのように織り込んでいるかに気づかせよう。もし彼らがこれを行うなら、神を辱めるので、このお方はご自分のみ名の栄光のために彼らをお用いになることができない。試練がわたしたちを試すためにおとずれるとき、またわたしたちが自分の前に繁栄と快適さが増し加わるところか、かえってこれらが減じていくと思われるとき、またすべての人の側で犠牲を要求するようなプレッシャーがあるとき、わたしたちはいかにして、これから自分たちは苦難の時を迎え、万事は粉みじんになり、そして前方には心の痛む問題があるのだというサタンへのほめかしを受けとめるであろうか。もしわたしたちがこれらの暗示に耳を傾けるなら、魂に盲目をもたらす神への不信仰が沸き起こる。(ビュー・アンド・ハルド 1898年9月27日)

わたしたちの性質は純潔、聖なるものでなければならない。わたしたちは、キリストがわたしたちの魂に反映しているご自分のかたちを喜びをもって見ることがおできになるように、このお方の思いを持たなければならない。わたしたちはだれ一人として、神がわたしたちになつてほしいと願われる者にも、わたしたちがなりえる者にも、また、このお方のみ言葉がわたしたちになるよう要求している者にもなっていない。わたしたちを神から遠ざけているのはわたしたちの不信仰である。……エノク、ヨセフ、ダニエルは無限の力強さに寄り頼んでいた。これが今日クリスチャンにとって追い求めるのに唯一安全な進路である。……

これらの目立つ人々の生涯はキリストと共に神のうちに隠されていた。彼らは、不信心と偶像礼拝に接触してもたらされた不信心のただ中で神に忠誠を尽し、腐敗のただ中で純潔であり、信仰深く熱烈であった。彼らは信仰によって、純潔で気高い品性の発達に都合の良い特性だけを自分に集めた。わたしたちもこのようにできる。わたしたちの立場がどうであろうと、わたしたちの環境がどれほど嫌悪感を起こさせようと魅力的なものであろうと、信仰はそのすべての上に到達することができ聖霊を見出すことができる。(同上 1885年9月1日)

内から汚れる

「さらに言われた、『人から出て来るもの、それが人をけがすのである。すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである。』」(マルコ 7:20-23)

あなたはいつも兄弟のあら探しをしては、それについて話している。そして、あなたが他人のふるまいに異議を唱えている間、あなた自身の心の中に有毒な雑草がもうもうと生い茂って繁茂し、深い根を下ろしてきた。生えてきたこれらの苦々しい根は、多くの人を汚し、あなたがそれらを見とめて、抜き去らないかぎりもっと多くの人を汚す。……

〔B兄弟が〕真理を悟る前に、彼の手はだれかれとなく敵対しているように見えた。彼の闘争的な精神は、挑発のたびに強められ、彼の自尊心が傷つけられるのであった。彼は難しい人であり、面倒なことに入り込み、面倒なことを起こしていた。神の真理が彼のうちで改革の働きをした。神は彼をお受け入れになり、このお方は彼をお支えになった。しかしB兄弟が自分を捧げる精神を失ってから、他の人と不和である彼の古い不穏な精神が主導権を得ようとし、強められてきた。彼が自己に死に、神の御前に自分の高慢な心をへりくだらせるとき、彼は自分の強さがどれほど弱いか分かる。彼は天の支援の必要を感じて、「おお、神よ、あなたの前に汚れたもの、汚れたもの」と叫ぶ。自慢している彼の誇りはすべて終わりを告げる。

道徳的暗闇が真理と徳に勝利をしている、この嵐の世にある人生はクリスチャンにとって絶え間ない闘争となる。彼は武具をまとい続けなければならないことが分かる。なぜなら彼は決して疲れることのない勢力、決して眠ることのない敵と戦わなければならないからである。わたしたちは自分が数え切れないほどの誘惑に取り囲まれているのが分かり、それらに打ち勝つためにキリストのうちにある力強さを見出さなければならないからである。さもなくばそれらに打ち負かされてしまう。(教会への証 3巻 452,453)

完全な変化が必要である。ある者はわたしたちの型、パターンであるカルバリーの苦しんでいるお方を見失ってしまう。わたしたちは、このお方の奉仕の中で、この世における安逸、名誉、偉大さを期待する必要はない。なぜなら天の至高者であるお方がそれをお受けにならなかったからである。(同上 2巻 516)

3月6日

心を頑なにするのはだれか

「主がパロの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの人々を去らせなかった。」(出エジプト 10:20)

わたしたちは、主がパロの心をかたくなにされたと言われている。王が主の言葉を聞くことを繰り返し拒んだことによって、より直接的で、より切迫した、より強力なメッセージが呼び起こされた。光を拒むごとに主は、より顕著にご自分の権威の表れを示された。しかし王の強情は、天の神の権威と大能の新しい証拠が与えられるたびに増し加わり、ついに聖なる矢筒からの憐れみの矢は尽きてしまった。それからその人は自分自身の執拗な反抗によって、全く頑なにってしまった。王は強情の種をまき、まさにそれを自分の品性の中で収穫したのであった。主は彼を納得させるために、これ以上何もおできにならなかった。なぜなら彼は強情と偏見のバリエードで囲われ、そこに聖霊は彼の心の入り口を見つけることができなかったからである。パロは彼自身の不信仰と心の強情さにそのままに引き渡された。不信心は不信心を生み出す。パロが神の権威の最初の現われに際し、心を頑なにしたとき、神の権威に二度目に拒むのをもっと容易にした。自尊心と強情が彼をとりこにし、彼に神の警告を認めさせなかった。一度信じないという自分の決心を表明した後で変更するのは、パロの性向に反した。

パロが行ったことは、猶予期間が閉じるまで人々によって何度も何度も繰り返されるであろう。神はだれをも滅ぼされない。しかし人が罪の自覚を押し殺すとき、彼が証拠に背を向けるとき、彼は不信仰の種をまき、自分がまいたものを刈り取る。パロの場合のように、彼の場合もそうなる。もっとはっきりとした光が真理を照らすとき、彼はますます抵抗して真理に立ち向かい、天から増し加わる光を拒むごとに、心を頑なにする働きは続いていく。わたしたちは、単純さと真理のうちに、人々が自分自身の魂を破壊する道に関して頑固な者に話したい。(ビュー・アofd・ワールド 1891年2月17日)

わたしたちは鋭敏な聖化された知覚が必要である。この知覚は互いに批判し非難するのに用いるのではなく、時のしるしを識別するために用いるべきである。わたしたちは信仰の破船に陥らないように、不斷の努力で自分の心を守るべきである。(教会への証 8巻 101)

まいたものを刈り取る

「しかしパロはこんどもまた、その心をかたくなにして民を去らせなかった。」(出エジプト 8:32)

主は、わたしたちの過ちが第二の性質になる前に、それらを正す機会をわたしたちが持つことができるようにと、わたしたちに警告、勧告、叱責をお送りになる。しかし、もしわたしたちが正されるのを拒むなら、神は、わたしたち自身の一連の行動の傾向にさからって弱めるために介入なさることはない。このお方は、まかれた種が発芽し、実を結ぶことがないようにと奇跡を行うことはなさらない。不信心な大胆さを表す人、あるいは聖なる真理に反応しない無関心を示す人は、自分自身がまいた収穫を刈り取るしかない。多くの人の経験がそのような者である。彼らがかつて彼らの魂そのものを揺り動かした真理を平然と聞く。彼らは真理に対する無視と無関心と反抗をまく。であるから、彼らが刈り取る収穫も同様である。氷の冷たさ、鉄の硬さ、突き通すことのできない、感受性のない岩の性質—これらすべてはクリスチャンであると公言する多くの者の品性の中によく似たものを見出す。このように、主がパロの心を頑なにされたのであった。神はモーセの口を通して、神の力の最も際立った証拠を与えつつ、エジプトの王に語られた。しかし王は彼に悔い改めをもたらしたはずの光を頑固に拒んだ。神は反抗的な王の心を頑なにするために超自然的な力を送られたのではなく、パロが真理を拒んだときに聖霊は取り去られ、彼が選んだ暗闇と不信仰に取り残されたのである。

御霊の感化力を頑固に拒むことによつて、人は自分自身を神から断ち切る。このお方は彼らの思いを啓発するためにこれ以上影響力のある代理人を備えてはおられない。神のみ旨の啓示は彼らの不信仰のゆえに彼らに届くことができない。…

わたしたちはみな肉か御霊のどちらかに種をまいている。そしてわたしたちは自分がまいた種を刈り取るのである。(ビュー・アofd・ヘルド 1882年6月20日)

あなたが永遠の関心事に注意を払うとき、身を起こしよい種をまき始めなさい。あなたがまくものをあなたは刈り取る。収穫—わたしたちがまいたものを刈り取る大いなる収穫の時は近い。作物に失敗はない。収穫は確かである。(教会への証 2巻 31)

3月8日

純潔な思想だけを保つ

「『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」(マタイ 5:27,28)

立派なタラントを持ちながら、不正にサタンへの奉仕に自らを捧げている者が多い。わたしは、世から出てきて闇のわざから離れていると公言する人々にどのような警告を与えることができるであろうか。また、神によってその律法の保管者としていただきながら、全能者の前で見たところは繁つている枝をこれ見よがしに誇示してはいるが、神の栄光のために実を結ばないうぬぼれたイチジクの木のような人々に、どのような警告を与えることができるであろうか。彼らの多くは不純な思想、罪深い想像、清められていない欲望、卑劣な情欲を大切にしている。……

キリストの大使として、不純な者に近づくことを即座に嫌い、不純なほのめかしを吹き込む人々の社会を捨てるために現代の真理を公言するあなたに、わたしは懇願する。これらの神を冒瀆している罪を最も激しい憎しみで嫌いなさい。会話においてすら、思いがそのような水路を通る人々から逃げなさい。「おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである」(マタイ 12:34)。

これらの神を冒瀆している罪を実践する者が世に着々と増えており、わたしたちの教会の中に割り込んでくるとき、彼らに場所を与えないようにと、わたしはあなたに警告する。キリストに従う者であると公言するが、彼は人のかたちをしたサタンである。彼は自分の主人にもっとよく奉仕することができるように、天の自由を借りている。あなたは一瞬といえども不純な覆われた暗示に場所を与えてはならない。なぜなら不純な水はそれが通る水路を汚すように、これすら魂にしみをつけるからである。

罪と共に魂を汚すよりは、貧困、非難、友との分離、どのような苦しみも選びなさい。不名誉、あるいは神の律法の違反よりも前に死がクリスチャン一人びとりの座右の銘であるべきである。改革者であると公言し、神のみ言葉の最も厳粛かつ精錬する真理を大事にしている民として、わたしたちはその標準を現在あるよりもはるかに高く掲げなければならない。(教会への証 5 巻 146,147)

誘惑から守る

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

〔神の律法は〕人の道徳的な性質の奥深く密かなところにまで及び、人の目や知識からは隠されてきた事に光の洪水をあびせる。手がなしえること、あるいは舌の語ること、すなわち外面的な生活が示し得ることは、人の道徳上の品性を不完全に表すにすぎない。(パウロの生涯からのスケッチ 241,242)

聖なる見張り人はわたしたちの生活の一つ一つの働きと行動を記し、行動するようにと促す動機を一つ一つ量られる。ベルシャザルの宮殿の壁に文字を書いたその手は、あらゆるところに「神はここにおる」と書いておられる。神はどの場所にもおられる。わたしたちのすべての言葉、すべての計画、すべての秘密の動機は無限の正義と真理のはかりで計られている。……

主がお読みにならない動機は心の中にはない。このお方はどの目的、どの考えもお読みになる。(上を見上げて 207)

心は天の恵みによって新たにされるのでなければ、生活のきよめを求めても無益である。キリストの恵みとは関係なしに、気高く正しい品性を築こうとする者は、くずれる砂の上に家を建てているのである。それは、激しい誘惑のあらしが襲ってくると、倒れるにきまっている。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」というダビデの祈りが、すべての魂の祈りでなければならない(詩篇 51:10)。天の賜物を受けてはじめて、われわれは「信仰により神の御力に守られ」ながら完全に向かって進むことができる(ペテロ第一 1:5)。

だが、誘惑に抵抗するためにわれわれにもしななければならないことがある。サタン戦略の犠牲になりたくない者は、魂の道をよく守り、不純な思いを起こさせるものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。(人類のあけぼの下巻 74)

愛情を生き生きと保ち、他人の心の中に存在する善に敏感でいる状態に心を保つには、特別な見張りを要する。もしわたしたちがこの点を見張らないなら、サタンはわたしたちの魂に自分のねたみを入れる。彼は、わたしたちが兄弟の行動をゆがんだ光の中で見るようにと、わたしたちの目の前に彼の眼鏡を置く。わたしたちは、兄弟を批判的に見る代わりに、自分たちの目を内に向け、自分自身の品性の嫌な特性を発見する用意ができていくべきである。(レビュー・アット・ワールド 1891年2月24日)

3月10日

あなたの宝はどこにあるか

「あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:21)

利己心と世を愛する心のゆえに、神は忘れられ、多くの者に魂の不毛があり、「わたしはやせ衰える、わたしはやせ衰える」と叫ぶ。主はご自分の民を試し、彼らが公言するご自分への愛の深さをテストするために、彼らに財産を貸し与えられた。ある者はこのお方を手離し、自分たちの地上の財産を減らして、犠牲によってこのお方と契約を結ぶよりは、自分たちの天の宝をあきらめてしまう。このお方は犠牲を払うようにと呼んでおられる。しかし、世への愛着が彼らの耳を閉ざし、彼らは聞かないのである……

大資産を得ていながら、なお自分の所有に加えている人々は、はるかに遅れを取っている。彼らは自分たちがないうることに比べると、ほとんど何もしていない。彼らは出し惜しみ、神から盗んでいる。なぜなら、彼らは欠乏するのではないかと恐れるからである。彼らはあえて神に信頼しようとしなない。これこそ、わたしたちが民としてあまりにも病気がちで、あまりにも多くの人が墓に下っている理由の一つである。貪欲がわたしたちの間にある。世を愛する人々、また雇っている労働者に出し惜しむ人々が、わたしたちの間にいる。この世では何も持っていない人々、貧しくて自分の労働力に頼っている人々は、厳しく不正に扱われてきた。世を愛する人々は、硬い顔とさらに硬い心をもって、厳しい労苦によってかせいだわずかな金額をしぶしぶ支払ってきた。彼らは、自分たちがその僕だと公言している自分たちの主人もまったく同様に扱うのである。彼らは、この同じようにしぶしぶと神のさいせん箱に入れるのである。譬の中の男は自分の財産を捧げるところがなかったので、主は彼の無益な生涯を短くされた。このお方は多くの人々も同様に扱われる。この墮落した時代に、世的に利己的にならないよう守ることはなんと難しいことであろう。わたしたちのすべての憐れみの与え主に感謝しなくなるのは、なんとたやすいことであろう。勤勉のかぎりを尽くして、魂を守るために、大いなる警戒と、また多くの祈りが必要とされている。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ 13:33)。(教会への証 2巻 198,199)

幸福を求めている非常に多くの者が、自分の望みにおいて失望するであろう。なぜなら、それを悪い求め方をするからである。真の幸福は、利己的な満足の内にはではなく、義務の道において見出されるのである。(レビュー・アード・ハラルド 1885年9月1日)

より良い言葉を取り出す

「心からあふれることを、口が語るものである。善人はよい倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。」(マタイ 12:34,35)

自分の信仰の足りなさ、悲しみ、苦しみについて語るのをやめなさい。誘惑者はそういう言葉を聞くのを喜ぶ。陰鬱な話をするのはサタンをあがめていることになる。わたしたちを征服せんとするサタンの大きな力について長く語ったり、考えたりすべきではない。サタンの力について語っているうちに、その手中に陥ることがよくある。その代りに、ご自身のみ心にわたしたちの関心をすべて結びつけられる神の大きな力について語ろう。(ミストリー・オブ・ヒーリング 230)

人は自分たちの心を神に捧げた後ですら、時に宗教的な主題について非常に控えめで、臆病で、神経過敏であるが、それは彼らが持つことのできるはずの力強さを受けないからである。わたしたちは現世の関心事を遠慮なく語る。そうであればなぜ自分たちの永遠の関心事を語るのにそれほど気が進まないのであろうか。すべての心が聖なる大胆さを吹き込まれると良いのに。わたしたちはみな勇気と不屈の精神と信仰をもって人々の前にイエスを掲げることができると良いのだが。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年3月16日)

あなたの兄弟や隣人があなたに会いに来るとき、イエスのすばらしい愛について語りなさい。失われた人間のためのこのお方のとりなしを喜びなさい。あなたの友に、彼らがキリストの血で買い取られているがゆえに、あなたが彼らの魂のために持っている愛を語りなさい。……あなたの同胞である旅人が主にあって喜ぶことができるように、義の太陽の光線が彼らの上に輝くようにしなさい。あなたはこれを家庭の伝道活動、近隣の伝道活動、教会での伝道活動で行うことができる。だれも審判の時に立って、「あなたはなぜこの真理についてわたしに言わなかったのか。なぜわたしの魂を気にならなかったのか。なぜあなたは世と世の娯楽を非常に愛して、それらは悪いものの筈がないという考えをわたしに印象づけたのか」と言うことができないように。(レビュー・オブ・ヘラルド 1888年8月28日)

益にならないことを語るのを減らし、命の御言、イエスのことをもっと多く語ることは、魂の内に霊的啓発と大いなる喜びを与える。(原稿リ-ス 11巻 207)

3月12日

清い水は清い泉から

「泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリーブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。」(ヤコブ 3:11,12)

みだらな冗談、悪ふざけ、軽率、軽薄な精神は、罪人にとってつまずきの石であり、聖化されていない心の傾向に負ける者にとってはなお悪いつまずきの石である。……もしだれかが一言でもわたしたちの主によって軽率な言葉が語られたり、あるいはこのお方のご品性に何らかの軽薄さがあると指摘できるなら、その人は自分自身にも軽率さと軽薄さが許されると感じてよいだろう。この精神はクリスチャンの精神ではない。なぜならクリスチャンというのはキリストのようであるということである。イエスは完全なパターン・型であるから、わたしたちはこのお方の模範を真似るべきである。……

みだらな冗談や軽率で軽薄な発言をする癖のある者が、にわかに威厳をもって、聖なる講壇に登場することもある。彼らはただちにまじめな主題の熟考へと移り、そして自分たちの聴衆に、かつて死すべき人間に委ねられた最も重要でテストとなる真理を示すことができるかもしれない。しかし、彼らが感化を与えた同労者、彼らと共に不注意な冗談に加わっていた働き人の仲間たちは、それほどすぐに自分たちの考えの流れを変えることはできないであろう。彼らは非難されていると感じ、彼らの思いは混乱する。そして天来の主題を熟考し、キリスト、しかも十字架につけられたキリストを説教するのに適さなくなる。

笑いを引き起こすようなしゃれたことを言う気質は、み事業の必要を考えると、それが実行委員会であろうと、理事会であろうと、そのほか仕事上の会議であろうと、キリストのものではない。この時機をわきまえない陽気さは、道徳力を低下させる傾向がある。……〔神は〕ご自分の民が品性の堅固さ、力強さ、堅実さを示し、快活で幸福な希望に満ちた気質を表すときにお喜びになる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1884年6月10日)

もしあなたがだれかを不当に取り扱ったなら、彼のところへすぐに行き、彼の手を取って「考えや言葉、あるいは行動であなたを傷つけたことをお許してください」と言うべきである。天はそのような光景を是認をもってご覧になる。わたしたちはこの温かみのない、冷たいパリサイ主義をすべて打ち砕きたい。(同上 1888年8月28日)

告白はより純粋な信仰をもたらす

「もしわたしが心に不義をいっていたならば、主はお聞きにならないであろう。」
(詩篇 66:18)

わたしたちは神のあわれみを受ける資格はないが、自分を神にささげるとき、神は受け入れてくださる。このお方は神に従う者のために働き、また、その人々を通じて働かれるのである。しかし、神のみ言葉に従って生活するときのみ、わたしたちはその約束の成就を主張できるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 204)

神の民は思慮深く動かなければならない。彼らは知っている罪はみな告白するまで満足すべきではない。それからイエスがそれらを受け入れてくださることを信じるのは、彼らの特権であり義務である。彼らは他の人々が暗闇を貫いて押し進み、勝利を得て、自分たちを喜ばせてくれるのを待つてはならない。そのような楽しみが続くのは、集会が閉じるまでである。しかし神には感情ではなく原則に従って仕えなければならない。朝に夕に、あなた自身の家族の中で、自分自身のために勝利を得なさい。あなたの日々の労働をこれから離してはならない。祈る時間を取りなさい。そして祈るとき神があなたの祈りを聞いておられると信じなさい。祈りを織り交ぜた信仰を持ちなさい。あなたはいつもすぐに答えがあると感じないかもしれないが、それは信仰が試みられているときである。あなたが神に信頼しているかどうか、あなたに生きた不変の信仰があるかどうかを見るために、あなたは試されている。「あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであろう」(テサロニケ第一 5:24)。信仰の狭い板の上を歩きなさい。ことごとく主のみ約束に信頼しなさい。暗闇の中で神を信頼しなさい。その時こそ信仰を持つべきである。しかしあなたはしばしば感情があなたを支配するのをゆるしてしまふ。自分が神の御霊によって慰められていると感じないとき、あなたは自分自身のなかに価値を探し、見つけることができないので失望する。あなたはイエス、尊いイエスを十分信頼していない。このお方の価値をすべて、すべてとしていない。あなたができる最上のことは神の好意に値しない。あなたを救うのはイエスの価値、あなたを清めるのはこのお方の血である。しかしあなたになすべき努力がある。あなたの分としてできることをあなたはしなければならぬ。熱心になって悔い改め、それから信じなさい。

信仰と感情を混同してはならない。それらは別のものである。信仰は働かせるべきわたしたちのものである。わたしたちはこの信仰を働かせ続けなければならない。信じなさい。信じなさい。あなたの信仰に祝福をつかませなさい。そうすればそれはあなたのものである。あなたの感情は、この信仰とは何の関係もない。(教会への証 5巻 167)

3月14日

耳ざわりの良い預言によってテストされる

「あなたがたのうちに預言者または夢みる者が起って、しるしや奇跡を示し、あなたに告げるそのしるしや奇跡が実現して、あなたがこれまで知らなかった『ほかの神々に、われわれは従い仕えよう』と言っても、あなたはその預言者または夢みる者の言葉に聞き従ってはならない。あなたがたの神、主はあなたがたが心をつくし、精神をつくして、あなたがたの神、主を愛するか、どうかを知ろうと、このようにあなたがたを試みられるからである。」(申命記 13:1～3)

神の民はテストされ試される。はっきりとした指摘された証がこの働きの中で重要な部分を果たさなければならない。暗闇と危難のこの時代に、だれが真理全体に立ち、これを話すことができるであろうか。教師の大部分は耳ざわりの良いことを預言する。彼らは神の民だと公言している人々の現在の状態に危機感をおぼえる特別な理由をみとめない。民は眠っており、教師も眠っている。彼らは平和、平和と叫び、聞く大勢の者は彼らの報告を信じて安心する。これにより、忠実な教師が、鋭く忠実な証をになう必要性はさらに大きくなる。現代はごしごし洗って不純物を除くとき、闘争と試練のときである。穀物がふるいの中でふるわれるように、イスラエルの家はふるわれている。(レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1861年 11月26日)

神はご自分の民を目覚めさせられる。もし他の方法が失敗するなら、異端信仰が彼らの中に入り込み、麦からもみ殻を分けつつ彼らを振るう。(教会への証 5巻 707)

罪を覆い隠し、それが違反者の思いになるべく悪く見えないように努める者は、偽りの預言者の働きをしているのであって、そのような行動に続いて神の報復の怒りを予期することができる。主は墮落した人間の願いにご自分の方法を適応なさることは決してない。(教会への証 4巻 185)

わたしたちはだれが主の側にいるかを知らなければならないその時が来ている。神の御事業は即座の行動を命じているので、今自分たちの最も小さなテストに耐えることのできない者は、龍の軍団が神の戒めを守り、イエスの証をもつ人々と戦うとき、彼らは何をするであろうか。(パンフレット 16,20,21)

すべて厳密に見られる

「神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」（ヘブル 4:12）

真理の宝を委ねられてきた者は他の者を上回る有利さとカルバリーの十字架の上における神の御子の犠牲によってわたしたちのために買ってくださった特権をよく考えないのであろうか。わたしたちは自分たちに与えられた光によって裁かれるのであるから、わたしたちの行動の罪を軽くするような言い訳を見つけることはできない。道であり真理であり命であるお方がわたしたちの前に置かれている。多くの者は言い訳をしようとして、「ある弱い品性の特質によってわたしを判断するのではなく、わたしの品性全体を考えなくてはなりません」と言う。罪人が自分の罪を詫びようとするとき、それを取り繕おうとして、一つでもキリストに似ていない品性の特性をいだし続ける危険に気づかないとき、わたしたちはいつも心に深い痛みを感じる。わたしたちは自分の意志を主の意志の側に置くべきであり、このお方の恵みによって自分たちは罪から自由になると堅く決心すべきである。罪は律法の違反であり、それが罪であることを示すのは、悪における行為の大きさではない。アダムとエバは善悪を知る木の実を食べることを禁じられていた。そのテストは軽いものであったが、神への不従順の行為がその律法の違反であった。（ビュー・アンド・ワールド 1893年8月1日）

偉大な天の芸術家であられるお方は一つの行動、一つの言葉に気づいておられ……また、思想や心の意図ですら忠実に詳しく記述されている。道徳上の品性におけるどの欠点も、天使たちの注視にさらされている。……人間の目にはその動機が隠されていても、エホバのすべてを見ておられる目には識別されている、惑わせる行動はすべて生ける品性の中に書かれている。利己的などの行動もさらされている。（教会への証 1巻 501）

どの言葉も行動も天の書物の中に焼き付けられている。人間の手は一つの名誉なしも消すことはできない。

その驚くべき特権と機会を伴った命はまもなく終わる。品性を発達させるときは過ぎる。（ビュー・アンド・ワールド 1886年6月15日）

3月16日

わたしたちは助けを大いに必要としている

「神は心の秘密をも知っておられるからです。」(詩篇 44:21)

神の律法は、外面的な行動と同様に、感情や動機にまで及ぶ。それは心の秘密を明らかにし、闇の中に埋もれている事柄に閃光を放つ。神はすべての思想、すべての目的、すべての計画、すべての動機をご存じである。天の書は、機会があれば犯された罪を記録している。神はすべてのわざを、すべての秘かなことと共にさばぎにかけられる。ご自分の律法によって、このお方はすべての人の品性を量られる。芸術家がキャンバスに顔の特徴を写すように、各個人の品性の特徴は天の書に写されている。神はすべての人の品性の完全な写真をもっておられる。そしてこの写真をご自分の律法と比較なさる。このお方は人にその生涯を傷つけている欠点をあらわし、彼に悔い改めて罪に背を向けるようにとお求めになる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1901年7月31日)

イエスに立ち返り、このお方にあなたの問題をすべて告げなさい。キリストはあなたのすべての状況をご覧になり、あなたのすべての誘惑や悲しみをご存じである。敵はあなた自身をより良いものとするまでキリストから離れているようにとほめめかすであろうが、彼のほめめかしに耳を傾けてはならない。なぜなら、もしあなたが神のみ許へ行けるほど良いものとなるまで待つなら、あなたは決して行くことはないからである。あなたはさばぎの時まで待つかもしれないが、キリストの許へ行くのにふさわしくなることはない。「見よ、今は恵みの時、…は救の日である」(コリント第二 6:2)。あなたは今日、キリストの愛のひきつける力に明け渡し、ありのままの自分でこのお方の身許へ行かなければならない。あなたが来るとき、このお方は絶えずあなたを引き寄せて下さり、ついには、すべての思いがイエスにとりこにされる。敵があなたが罪人であることを訴えて、あなたを自分の救い主から引き離れたままにしようとするとき、彼に、あなたは主のもとへ行く資格を与えられていることを告げなさい。なぜなら、このお方は「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」と言われるからである(ルカ 5:32)。…

罪人が来ることは、キリストにとって嫌なことではない。…天はイエスを受け入れる者たちを受け入れる用意ができています。そうであれば、わたしたちはこのお方の許へ行き、まさにわたしたちが必要としているものを求めて、それを受けるのだと信じようではないか。(パイブル・エコー 1893年2月15日)

わたしの二心を一にする

「主よ、あなたの道をわたしに教えてください。わたしはあなたの真理に歩みます。心をひとつにしてみ名を恐れさせてください。」(詩篇 86:11)

神の民の現代における大きな罪は、神がわたしたちに授けてくださった祝福の価値を正しく評価しないことである。わたしたちは二心なく、このお方に仕えるのである。何らかの偶像を心にいだいている者が多い。(レュー・アンド・ハルト 1887年 4月12日)

わたしたちは終りの時代の危険のただ中に生存しており、そこには思いをそらせ、神から愛情をそらせるために魅惑するすべてのものがある。(教会への証 3巻 403)

神は二心を共有なさることはない。もし世がわたしたちの注意をうばっているならば、このお方は最高位を治めることはおできにならない。(ユース・インストラクター 1896年 12月31日)

あなたはときどき、宗教的な義務の外面的な実行に携わるが、あなたの心は働いていない。あなたはときどき、罪人に警告の言葉を語ったり、真理のための一言を語るが、それは気乗りしない奉仕であり、あたかも子供の愛情をもった快活な奉仕ではなく、厳しい現場監督に捧げるような奉仕である。もしあなたの心がクリスチャンの熱心さにあかあかと燃えているならば、もつとも骨の折れる義務が楽しくやさしいものとなるであろう。

なぜクリスチャン生涯が多くの人にとってこれほど難しいものであるかその理由は、彼らが二心だからである。彼らは二心であるために、あらゆることにおいて安定していない。彼らがクリスチャンの熱心さを豊かに吹き込まれていたなら、それはいつも神への献身という結果になり、「わたしはやせ衰える、わたしはやせ衰える」と嘆いて叫ぶ代わりに、魂の言葉は、「主がわたしに何をなされたかを聞きなさい」となる。(教会への証 2巻 234)

神に真に栄光を帰したいと願っている人は、すべての偶像やすべての罪が明らかになることを感謝する。それによってこれらの悪を認めて、捨て去ることができるためである。(同上 4巻 354)

キリストのものになるということは、このお方の働きに献身することであり、このお方のみ旨をなし、このお方の栄光を進ませるために、頭脳と体のすべての肢体のすべての力を用いることを意味する。それはこのお方のみ言葉に心を開くことであり、このお方の愛の証拠を明らかにすることである。それは内にかたちづくられた栄光の望みなるキリストを持つことであり、ついには魂のあふれる感謝が「主がわたしに何をなされたかを聞きなさい」との言葉になることである。(レュー・アンド・ハルト 1884年 1月1日)

3月18日

広い心になる

あなたがわたしの心を広くされるとき、わたしはあなたの戒めの道を走ります。」
(詩篇 119:32)

キリストは、ご自身の関心を、低い者、困窮している者、苦しんでいる者と同一にご覧になった。このお方は小さい子供たちをご自分の腕に抱きあげ、青年たちの標準にまで下って来られた。このお方の広い愛の心は、彼らの試練や必要を把握された。またこのお方は彼らの幸福を楽しまれた。(福音宣伝者 1892 年版) 404)

人全体は、すべての分野で一特徴において、気質において、言葉において、品性において一主の奉仕はよいものだという断固とした証を担う特権がある。…

農夫が自分の産物を推奨しようとするとき、もっとも貧弱な種類を展示することはしない。女性は黄金色のバターの塊を持ち込む。男性はあらゆる種類の最上の野菜や果物を持ってくる。そしてそれらの様子は、たくみな働き人の信用なのである。出来損ないの見本ではなく、地が産物をもたらす中で最上のものである。そうであれば、なぜクリスチャンは無私の行為の中で最も魅力的な実を表すべきではないだろうか。神の戒めを遵守する民の実は、良いわざの中に現われるべきではないだろうか。彼らの言葉、彼らのふるまい、彼らの衣服は、ごく最上の品質の実のようなものであるべきである。…

神はご自分の戒めを守る民を愛される。彼らの従順を通して、このお方の聖なる御名は尊ばれ、このお方を愛する彼らの愛が証される。しかし、彼らはこれをしているだろうか？神のみ言葉の聖なる真理を聞いている全世界の人々は、これらの高く聖なる真理を信じると公言している民が、自分の同胞の救いのために、より激しくより真剣な熱意を持っていないことに驚いている。わたしたちの信仰と熱意の激しさは、わたしたちの道を照らしている偉大な光に比例しているべきである。信仰、すなわちへりくだって神に信頼する信仰は、おのずと家庭の中で、近隣の中で、教会の中で現れる。聖霊の働きは、妨げられることはないし、妨げることもできない。神は父として、すなわち彼らが絶対的に信頼できる神として自らをご自分の民に表わすことを喜ばれる。教会員は、キリストのご品性の尊い特徴を持つようにしよう。そのとき、神の恵みの宝のために神への賛美と感謝がもっと語られるようになる。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 9 月 29 日)

互いのための熱烈な愛

「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいだくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合いなさい。」(ペテロ第一1:22)

わたしたちは終りの時に近づいている。試練は外からたくさんあるであろう。しかし、教会の中からそれらが来ることのないようにしなさい。神のものと公言する民は真理のために、キリストのために、自己を否定しなさい。「なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである」(コリント第二 5:10)。真に神を愛する人は皆、キリストの精神と自分の兄弟への熱烈な愛を持つ。人の心が神との交わりのうちにいればいるほど、その人の愛情は、キリストに集中するようになり、この世の生活で直面する荒々しさや困難によってわずらわされることが少なくなる。キリスト・イエスにある満ち満ちた男女の高さにまで成長しつつある人々は、ますます品性においてキリストに似たものとなっていく、つぶやきや不満の気質を超越するようになる。彼らはあらゆるものを嫌う。

この時代の教会には、かつて聖徒たちに伝えられた信仰があるべきである。それによって彼らは次のように大胆に言えるようになる。『見よ、神はわが助けぬし…です』(詩篇 54:4)。…主はわたしたちに目覚めて、前進するようにお命じになる。教会が自分たちの罪を捨て、真理を信じて歩むべき時はいつも、神に尊ばれてきたのである。信仰と謙遜な従順のうちには、世が耐えられない力がある。神の民に関連する神のみ摂理の命令は前進、すなわちクリスチャン品性の完全において、聖潔の道において、時の終わりまで、もっと高くさらに高くはつきりとした光と知識と神の愛のうちに上って行く継続的な前進である。ああ、わたしたちはなぜいつまでもキリストの教理の最初の諸原則を学んでいるのであろうか。もし教会員がこの危険な生ぬるさから目覚めようと真剣に求めるならば、主は教会のために豊かな祝福を持っておられる。(教会への証 5 巻 483,484)

みことばに従うことによって、要求されている実、すなわち「偽りのない兄弟愛」という実を結ぶ。この愛は天から生まれ、高尚な動機や無私の行動へと至る。(患難から栄光へ下巻 219)

3月20日

純潔な教会—純潔なわたし

「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

教会を純潔にする働きは、痛みを伴う働きである。しかし、もし教会が神の賞賛の言葉を得たければ、なおざりにすることはできない働きである。ただ悔い改めなさい。なぜなら、あなたは始めの愛から離れてしまったからである。ここにはっきりとわたしたちがキリストの教会の一員として目の前に自分の働きが提示されている。もしわたしたちに信仰がないなら、命の冠を失い、他の人がそれを奪うことになる。なぜなら、信仰のない者が落ちたところは、忠実な者によって埋められるからである。もしわたしたちが主人のために自分の光が輝くことを拒むならば、もし神の働きをしないならば、他の人々が、わたしたちのするはずであり、できたはずであったのに、することを拒んだ働きをするようになる。わたしたちが自分の使命を果たすことをやめるとき、燭台が光を反射することを拒み、世のためにわたしたちが個々に委ねられた偉大な真理が彼らに伝えられないとき、そのとき、燭台は取り除かれる。(ビュー・アンド・ワルド 1887年 6月 7日)

世は毎日、清めの血により頼まないかぎり、魂を汚す。一つ一つの思いがキリストにとりことしてとらえられなければならない。一つ一つの怒りの言葉は語らずにおかななければならない。欺瞞があってはならない。利己心や不注意は、正しいことからそらせる。(パイブル・エコー 1895年 7月 29日)

主の目は至る所にあつて、悪も善も見ておられる。このお方はわたしたちのすべての誘惑をご存知であり、キリストがそれらに抵抗されたように、わたしたちが抵抗することを期待しておられる。イエスはわたしたちがご自分の純潔な命を生きるために死なれた。…心は純潔にされなければならない。なぜなら、そこから命の泉が流れるからである。意志は、自らの指揮をキリストのご命令に明け渡さなければならない。パウロはこのことを新しい人を着ることとして描写している。「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである」(エペソ 4:24)。

罪との妥協は純潔にして聖なる神に決して受け入れられることができない。心、品性、またふるまいのすべての分野において根本的な変化がない改心は本物ではない。…この現在の生活は、訓練学校である。ここでわたしたちは精練されて、キリストの来臨の時にしみもいわもそのたぐいのものが一切ない状態—光のうちに聖徒たちの嗣業を受ける準備ができていない状態ではなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901年 7月 17日)

聖霊に耳を傾ける

「あなたがたがわたしに対しておこなったすべてのとがを捨て去り、新しい心と、新しい霊とを得よ。イスラエルの家よ、あなたがたはどうして死んでよからうか。わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻って生きよ」（エゼキエル 18:31, 32）

真の宗教は、単純にキリストについて行く。利己心を表現する宗教に価値はない。なぜなら、罪深い心こそ、実際の砦だからである。心が無条件に明け渡されないかぎり、神の祝福は魂に注ぎこむことができない。…そして新しい生活が始まることはないのである。（原稿別ス 18 巻 277）

新生によって表される心の変化は、聖霊の効果的な働きによってのみもたらされる。このお方だけがわたしたちをあらゆる不義から清めることができになる。もしこのお方にわたしたちの心を型に入れて形づくっていただくなら、わたしたちは神の王国の性質を識別し、わたしたちがこの御国に入ることができる前に起こるべき変化の必要性を自覚する。誇りと自己愛は、神の御霊に抵抗する。魂の生来の傾向はすべて自己尊重や誇りから、キリストの柔和と心のへりくだりへの変化に反対する。しかし、もしわたしたちが永遠の命への道のりを旅したいのであれば、自己のささやきに耳を傾けてはならない。（ユス・インストラクター 1897 年 9 月 9 日）

克服するということは、わたしたちが自覚することよりはるかに多くを意味する。それは敵に抵抗し、神に近づくことである。それは十字架を取り上げ、キリストに従うこと、生来の傾向に反する事がらを快活に行うことを意味する。いかに自己犠牲の生活を送るかを示すためにキリストが天から来られた。このお方の力のうちに、わたしたちは完全を得るべきである。このお方はわたしたちがこうすることを可能にして下さった。そしてこのお方は再臨なさるときに、なぜわたしたちが自分のためのこのお方の目的を果たさなかったのかを問われる。日々時々、わたしたちは裁きのために準備し、自分たちの永遠の運命を決定しているのである。…すべてのことは、聖所の金の秤で正確に量られている。

キリスト教とは、キリストのご生涯に完全に一致することを意味する。（サイン・オブ・ザ・タイムズ 1901 年 7 月 17 日）

3月22日

純潔は絶対に必要

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ 5:8)

地におけるどの会衆の中にも、満足しておらず、救いに飢え渴いている魂がいる。夜も昼も、彼らの心の重荷は、わたしは救われるためにどうすればよいのかである。彼らは、自分たちが神のみ前にどうすれば義とされるのかを知りたいと望んで、熱心に有名な説教を聞く。しかし、あまりにもしばしば彼らが聞くのは耳あたりのよい話、雄弁な朗読ばかりである。どの宗教的な集会にも心に悲しみ失望している者がいる。牧師は自分たちの聴衆に、彼らは神の律法を守ることはできないと告げる。「それはわたしたちの時代、人に対して拘束力はない」と彼は言う。「あなたがたはキリストを信じなければならない。このお方はあなたを救われる、ただ信じなさい」。こうして彼は彼らに自分の感情を標準とするようにと教え、彼らに知的な信仰を与えない。その牧師は非常に誠実だと公言するかもしれない。しかし、彼らは偽りの希望によって呵責を覚える良心をしずめようとしているのである。

多くの人々は神の律法を拒みながら、彼らがキリストを信じると公言しているから、天への途上にいると考えるよう導かれている。しかし、彼らはずいには天ではなく滅びへの道にいることを見出すことになる。霊的な毒は聖化という教理で砂糖がけされ、民に投与されている。幾千もの人々がそれを熱心にのみこもうとしている。(ビュー・アヴ・ハルト 1881年3月8日)

人々が神の言葉の靈感に関してぐらつくほとんどすべての場合、その理由は、そのみ言葉が責める彼らの聖化されていない生活である。彼らはその譴責や差し迫ったみ言葉を受け入れない。なぜなら、それらが彼らの誤った一連の行動をよく吟味させるからである。(教会への証 1巻 440)

もし生来の心の気持ちが抑制されず、信仰という通路を通して受け入れられる神の恵みの聖化させる感化によって制せられないのであれば、心の思想は純潔でも聖なるものでもない。神のみ言葉の中で見せられる救いの条件は合理的で、明白で、疑いようもなく、神の御心への完全な一致、心と生活の純潔に劣るものではない。わたしたちは自己とそれにつく欲とを十字架につけなければならない(同上)

内から外へ神を喜ばせる

「主よ、わたしをためし、わたしを試み、わたしの心と意思とを練りきよめてください。」(詩篇 26:2)

生活の純潔は精練をもたらし、それを持つ人々をますます荒々しさや罪への放縦を避けるように導く。(同上 441)

イエスの美しさ、善、憐れみ、愛を熟考すると、精神と道徳の力が強められる。そして、思いはキリストのわざをなし、また従順な子供となるように訓練され続け、習慣的に、これは主の方法だろうか?と問い続けるようになる。イエスはわたしがこうすることを喜ばれるであろうか。この一連の行動は、自分自身を喜ばせるであろうか、あるいはイエスを喜ばせるだろうか、と。

そのとき、すべての魂は次の主の言葉を覚えていよう。あなたはわたしの密かな罪をみ顔の光の中に見ておられます。多くの人々は、もしイエスを喜ばせたいのであれば、その思想と行動の方向において、決定的な変化をなす必要がある。わたしたちはめったに神がご覧になるような嘆かわしい光のうちに自分の罪を見ることができない。多くの人々は罪の道を進むのに慣れていて、サタンの方の感化力の下でその心は頑なになる。そして、彼らの思想はサタンの邪悪な感化力へととりこされる。しかし、神の力と恵みのうちにあるとき、彼らは自分の思いをサタンの誘惑に対抗して置くのである。彼らの思いは明晰になり、彼らの心と良心は、神の御霊に感化されて敏感になり、罪がそのままに非常に罪深くあらわれるようになる。そのとき、隠れた罪が彼らの顔の光の中におかれる。彼らは自分の罪を神に告白し、それらを悔い改め、罪を恥じるようになる。(ハイヴル・コメント [E.G. 初刊本] 3巻 1150)

わたしたちは魂のすべての精力を克服する働きのうちに働かせ、自分ではできないことをなすための力を求めてイエスを眺めるべきである。どんな罪も白い衣のうちにキリストと共に歩む者のうちに容認されることはあり得ない。汚れた衣は取り除かれ、キリストの義の衣がわたしたちに着せられるべきである。悔い改めと信仰によってわたしたちは神の戒めのすべてに従順を捧げることができ、このお方のみ前に責められるところのない者として見いだされるようにされる。神の是認を受ける人々は今、自分の魂を悩ませ、自分の罪を告白し、真剣に自分たちの弁護人イエスを通して許しを嘆願している人々である。(教会への証 5巻 472)

3月24日

純潔な言葉と思想

「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように。」(詩篇 19:14)

わたしたちは互いに最も厳粛な関係を維持する。わたしたちの感化力はいつも魂の救いのためになるか反するものになるかのいずれかである。わたしたちはキリストと共に集めるか、散らすかのいずれかである。わたしたちはへりくだって歩み、道をまっすぐにすべきである。さもないと、他の人々を正しい道から出させてしまう。思想と言葉とふるまいにおいて、もっとも厳密な高潔さを維持すべきである。神は隠れた罪をみ顔の光のなかにおかれていることを覚えていよう。最上の人をさえ悩ませるサタンがほのめかしをひきおこす思想や感情がある。しかし、もしそれらを心にいだかなければ、もし憎むべきものとしてそれらをはねつけるなら、魂が罪によって汚されることはない。また他の人々がそれらの感化力によって汚されることはない。ああ、わたしたちが各自、まわりにいる人々に対して命から命へいたる香りとなることができればよいのだが!

神の聖なる真理についてもっと深い感謝の必要が大いにある。もしすべての人が厳粛さとメッセージの重みを自覚するなら、今は不注意に犯されている多くの罪が、わたしたちのうちで止むであろう。あまりにもしばしば、ありきたりの思想や通信が、真理の聖なる主題とまぜあわされることはないだろうか?これがなされる時、標準は下がる。あなたの模範が他の人々に真理を軽くみなすように導くが、これこそ神の御目に最大の罪の一つなのである。

神に是認され、祝福されるように生きることが、すべての人の特権である。あなたは毎時天と交わることができる。あなたがいつも罪の宣告と闇の下にいることは、天父のみ旨ではない。あなたがいつも自らを非難することは神をお喜ばせない。あなたはあなた自身の良心によって、また人と天使たちの前で承認されるように生きることによって、自己尊重を培うべきである。あなたが自分の頭を垂れて、あなたの心を自己の思いでいっぱいにして進むことは真の謙遜の証拠ではない。イエスのもとへ行き、清められ、律法の前に恥も後悔もなく立つことは、あなたの特権である。(ビュー・アンド・ワールド 1888年3月27日)

貪欲を克服する

「わたしに知恵を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。わたしをあなたの戒めの道に導いてください。わたしはそれを喜ぶからです。わたしの心をあなたのあかしに傾けさせ、不正な利得に傾けさせないでください。」(詩篇 119:34-36)

誇り、自己愛、利己心、悪意、貪欲、世の愛、憎しみ、疑い、嫉妬、邪推はみな、永遠に征服され、犠牲にされなければならない。キリストが現れる時には、これらの悪が正されることはなく、その時にこのお方の来臨のための道徳的な資格が与えられることはない。この準備はみなこのお方が来られる前になされなければならない。思想や研究の主題、また「わたしたちが救われるためには、どうしたら良いかとの真剣な問いがなければならない。わたしたちが神に是認されるためには、どのようなふるまいを示すことができるだろうか。

つぶやき、非難し、いらだちにふけり、周囲の人々を傷つけるよう誘惑される時、またそうすることによってあなた自身の魂を傷つける時、ああ、深く真剣で熱心な問いがあなたの魂から出るようにしよう。わたしが神のみ座の前に傷のないものだろうか？傷のない者だけがそこにいるようになる。だれ一人心を地上のごみで満たしながら、天に移される者はない。道徳的品性の一つ一つの欠点はまずいやされ、すべてのしみはキリストの清めの血で取り除かれなければならない。そしてすべての不快で愛らしくない品性の特質は克服されなければならない。(教会への証 1 卷 705)

前進と神のみ事業の建設のための道は、利己心、誇り、貪欲、浪費、誇示の愛着によって塞がれている。教会全体が働きのすべての分野において担うべき厳粛な責任を負わされている。もし教会員がキリストに従うなら、彼らは誇示への傾向、衣服への愛着、優雅な家や高価な家具への愛着を否定するのである。もつとはるかに多くの謙遜と、はるかに大きな世からの区別がなければならない。…さもなければ、神はわたしたちの携わっている立場や働きの性質が何であろうと、わたしたちをお受け入れにならない。…全ての人の義務はキリストから学ぶことであり、天の大君がたどられた自己否定の道をへりくだって歩むことである。(同上 7 卷 296,297)

3月26日

神のみ言葉によって救出される

「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。」(詩篇 119:11)

わたしたちは神の口から出る一つ一つの言葉を信じることによるのみ、勝利することができる。自分たちがサタンの詭弁や魔力に打ち負かされないために、何が記されているかを知らなければならない。狡猾な敵は自分がたどった道にわたしたちが従うような方法でわたしたちの思いに働きかけ、偉大さや世俗的な栄誉、卓越さを夢見るようにさせる。もしわたしたちが彼の魅惑的な力によってわなにかけられてきたなら、イエスのみ名によって彼の力を叱責し、一刻の猶予なくサタンを打ち破ろう。あなたの飲み込んだものの性質がどんなものであろうと、サタンがいかなる方法であたなイエスという代価で自己を高めるように導いてきたとしても、神聖な恵みの力を通して、妄想から逃れ、のぼせ上りから離れなさい。わたしたちは、「真理に従う必要がないと、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか」(ガラテヤ 3:1 欽定訳)。

サタンが自分のまわりにはりめぐらせた恐るべき魅惑からの救出を求めて叫ぶ人々は、聖書を高く評価する。わたしたちの唯一の安全は、聖書全体を受け入れること、すなわち単にある切りとられた一部だけでなく、真理全体を信じることにある。あなたの足は、もし記された一つのみ言葉を軽視するなら、すべる砂の上に立っているのである。聖書は、神からの通信であり、あたかも天からわたしたちに語りかけるのが聞こえる声のような魂に対するメッセージそのものである。私たちが永遠の現実を学ぶことができるように、どのような畏敬、敬神、謙遜をもって、聖書研究にとりかかるべきであろうか。サタンの魅惑が打ち破られ、聖書がわたしたちにとって神の生けるみ言葉となるとき、自分の義務の確信に従っても安全である。なぜなら、もしわたしたちが目を覚まして祈っているならば、それらは神の御霊によって靈感を受けるからである。すべての人は神のみ言葉は永遠の御座と同じように永続することを知って、聖書を研究しよう。もしあなたが謙遜のうちに聖書研究を行い、導きを求めて真剣に祈るならば、神の天使たちがあなたにその生ける現実を開いてくれる。そしてもしあなたが真理の規則を大事にするならば、それらはあなたにとってサタンの誘惑、魅惑、魔法に対する火の城壁のようになる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年9月18日)

正直に正しいことを行う

「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。直く歩み、義を行い、心から真実を語る者」(詩篇 15:1, 2)

わたしたちには神のみ言葉の教えと訓告、招きと約束があるが、神の律法から一点一画を離れることにより、自分の魂を危険にさらすのだろうか。神はわたしたち一人ひとりに、「わたしはあなたのわざを知っている」と言われる(黙示録 3:15)。(ビュー・アズ・ハルド 1888年3月27日)

[黙示録 3:5 引用]。もしわたしたちが勝利者になりたければ、自分の心を探り、神にとって不快なことを一つも心にいだいていないことを確かめなければならない。もしわたしたちが何かを心にいだいているならば、ここに約束されている白い衣を着ることはできない。もしわたしたちが白い麻布、すなわち聖徒たちの義のうちに神のみ前に立ちたければ、今、勝利する働きをしなければならない。…

神の御使たちは道徳的な価値を測っている。彼らは今生きている人々のうちに、品性の発達を見守っている。それは、彼らの名前がいのちの書にとどまることができるかどうかを調べるためである。恩恵期間が与えられているのは、その間に、わたしたちが自分の品性という衣を洗い、小羊の血によってそれを白くするためである。だれがこの働きをしているであろうか。だれが罪と利己心から自らを分離させているであろうか。…

わたしたちの多くの人々のために、なされなければならない大きな働きがある。わたしたちの思いと品性は、キリストの思いと品性のようにならなければならない。利己心がわたしたちの存在そのものに混じりこんでいる。それは嗣業としてわたしたちにもたらされ、多くの人々はそれを貴重な宝のように大事に心にいだいてきた。自己と利己心が克服されるまでは、神のための特別な働きが成し遂げられることはできない。多くの人々にとって、自分自身に結びついているすべてのことが非常に重要なのである。自己が中心であり、そのまわりにすべてのものが回転しているかのようである。キリストが今この地上におられるならば、このお方はそのような人に、「沖へこぎ出し…てみなさい」と言われることであろう(ルカ 5:4)。自分を気にする者になってはならない。あなたの命と同じように尊い命を持つ人が幾千といふ。そうであれば、なぜあなたは自分のまわりに上着をまきつけ、岸沿いに進むのか。義務と有用性に目覚めなさい!もしあなたが深みへこぎ出し、あなたの網を下ろすなら、主人は魚を中に集めて下さり、あなたは神の力強い働きを見ることであろう。(ヒストリカル・スケッチ 138,139)

3月28日

わたしたちの心の中にあるべき神の律法

「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」(詩篇 40:8)

わたしたちは愛のうちに歩み、自分の意思を神のご意志に一致させて、働くべきである。こうする人々について、主は「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう」と宣言される(ヘブル 8:10)。神は力強い方であり、この変化させる働きにおいて全能の方である。このお方の御霊によって心のうちにご自分の律法を記して下さる。(ビュー・アヴ・ハヴド 1902年6月10日)

神の律法が心の中に記されるとき、それは純潔で聖なる生活のうちに表される。神の戒めは死んだ文字ではない。それらは霊であり、命であり、想像と思いでさえキリストのみ旨に従うものとする。それらが記された心は、勤勉をつくして守られる。なぜなら、そこから命の泉が流れるからである。イエスを愛し、戒めを守るすべての人は、悪と見えるものを避けようとする。そうするように強制されるからではなく、純潔な模範を模倣しているからであり、自分たちの心のうちに記された律法に反するものに対して嫌悪感を覚えるからである。彼らは自己満足を感じることはない。なぜなら、彼らは神に信頼しているからである。このお方だけが彼らを罪と不純から守ることがおできになる。彼らをとりまく雰囲気は純潔である。…

終わりの時代に生ける人々の前にある危険は、純粹の宗教の欠如、心の聖潔の欠如である。神の改心させる力は、彼らの品性を変化させることによって働くことがなかった。彼らはユダヤ国家のように神聖な真理を信じてと公言する。しかし、彼らが真理を実践しないことによって、聖書も神の力も知らなかった。神の律法の力と感化は周りを取り囲んでいたが、魂の中にはなく、真の聖潔において心をあらたにすることがなかった。(同上 1887年5月17日)

心のうちに神の律法が記されている人は、人よりも神に従う。そして神の戒めの一番小さい点から外れるよりは、すべての人に対して従わないのである。神の民は、真理の靈感に教えられて、また神のすべてのみ言葉によって生きるために善良な良心に導かれて、自分たちの心に記された神の律法を、唯一彼らが認め、従うことに同意する権威とするのである。神の律法の知恵と権威は最上である。(教会への証 1巻 361)

心を尽くした献身

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならぬ。」(申命記 6:5)

神は真実、わたしたちと共におられる。もし心が純潔であれば、行動の純潔さと目的の高尚さがすべての働きの中にあられる。すべての思いは清められ、すべての心は純潔にされる。すべての人は、罪が死すべき人間にかつて与えられた尊い光を受けてきた民によって容認されることはないということを理解すべきである。ただほんのわずかな間に、そして来たるべき方がお見えになる、滞りはしない。自分たちの罪にしがみつくことを選ぶ人々は滅びなければならない。しかし、神は永遠のために徹底的な働きをなすすべての人に憐れみを持っておられる。(世界総会冊子 1903 年 3 月 16 日)

もし心が純潔ならば、恵みの御座へはばかることなく行くことができる。神がわたしたちの言うことを聞いて下さると信じて、あたかもこのお方が聞いておられることを知っているかのように行動するのである。これが信仰である。もしわたしたちが特別な感情を待つなら、失望することになる。気持ちは信仰と関係がない。受け入れられる条件は、わたしたちが世から出て分離し、密かな罪を捨て、故意に神のご要求の一つでも犯すことをやめることである。

もし各自が自分の独特の気質をもって、自分自身の方法を通したいという願望を持ってそこへ行くとしたら、なんと天国になることであろう! そのような人は、自分の思い通りにできるとは限らなかったなら、天国においてさえ、なんと不幸になることであろう! 正しいことを愛する心は、この地上にいる間に、わたしたちに織り込まなければならない。そのとき、天の光が入ってきて、わたしたちの心はイエスに対して開かれ、完全に神のみ旨に服するようになる。

イエスはわたしたちに完全な型を残された。それを注意深く研究しよう。そのように研究して祈る時に、わたしたちは天との近いつながりに入るようになる。わたしたちはイエスに似た者になろうと もっと奮闘しないであろうか? もっと祈らないであろうか? 他の人々のためにもっと真剣に努力しないであろうか? 怠惰にやり過ぎてしまう時間はない。天に入る人は、自分の働きの結果として、いくらかの魂をイエスに提示する。「よくやった」という言葉が、よくやらなかった人々に語られることは、決してない。わたしたちは、もし忠実な者に約束された報いを受けたいならば、忠実でなければならず、活動的でなければならぬ。(ビュー・アズ・ハラルド 1886 年 3 月 16 日)

3月30日

心を尽くして魂を勝ち取る

「わたしは心をつくして主に感謝し、あなたのくすしきみわざをことごとく宣べ伝えます。」(詩篇 9:1)

ギデオンの軍の経験に、わたしたちのための教訓がある。働きに自分の心を込めている人々は、非常に熱心なので、飲むために水ぎわでひざを折り、かがむことをせずに、戦闘へと急ぎながら、自分の手で水をすくう。そしてこれらの人々を神はお用いになるのである。飲むために慎重な準備をする人々、そのために時間を取る人々は、自分の家に送り返された。イスラエルの主なる神は一人ひとりの働き人を見守り、彼が熱心であるかどうか、彼が心に魂の重荷を負っているかどうかを調べておられる。神はご自分の僕たちが、これらの生ける魂に指先で触れるだけなのか、あるいは全力でつかむのかを調べておられる。もしすべての人が、「スコットランドをください、さもなければ死にます!」とノックスが叫んだ時のような関心一決して拒まれることのない神との格闘一を持っているなら、主は彼らの努力と共に働いて下さる。そして彼らにその報酬として魂を与えてくださるのである。彼らは自分の成功によって高ぶることはなく、また一瞬でも、他の人が自分の手柄を受けるのではないかと恐れることもない。そうではなく、彼らは救われた魂のために神に非常に感謝するので、昼も夜もこのお方の賛美が彼らの心のうちにあり、唇にあるのである。神がご自分のみ事業において力強いものとなさるのは、そのような働き人である。

わたしたちはあまりにも信仰がなく、あまりにも視野が狭い。ギデオンの軍は勝利したが、数によってではなく、神の特別な指示に従った生ける信仰のうちにおいてであった。もしわたしたちが狭い計画を立てるなら、ほんのわずかなことしか成し遂げられないであろう。…神はわたしたちが自分たちの周囲にいる人々をキリストの血で買われたものだという事、またこれらの魂を救うか失うかは、大いにわたしたちのふるまいや働き方によることを常に自覚するよう望んでおられる。わたしたちは改革者であって、偏狭な者ではないことがつねに明らかにされていなければならない。(パソフィック・エオン・レコーダ-1905年6月27日)

わたしたちは、いつでもどこでも、神のいつくしみ深さを感謝していることを表明するのが義務であることを決して忘れてはならない。…わたしたちのしたり、話したりするすべてのことに、自分たちの主を尊ぶべきである。わたしたちはキリストに魂を勝ち取る主の使者となるべきである。(原稿リ-ス3巻134,135)

愛の手紙を生きる

「そして、あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙であって、墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板にではなく人の心の板に書かれたものであることを、はっきりとあらわしている。」(コリント第二 3:3)

キリストがあなたと共に宿り、あなたがこのお方と共に宿るとき、あなたは過去数年間に述べてきたこと以上に何かもつと言うことがあるであろう。あなたには心の肉の板を切り通すメッセージ、関節と骨髄を分け、心の思いと志とを見分けるメッセージを持つようになる。もしわたしたちが目の前にある悩みの時を通過することができるようにさせる知恵と知識を持ちたいならば、それを今、日々信仰を働かせることによって集めていなければならない。あなたに悩みの時について不安を覚えてほしくはない。かえって今あるところから自分の働きにとりかかり、日々それを忠実に行なってほしいのである。あなた自身の教会のうちに、近隣に、助けを必要としている魂がいる。…

貴重な種をもって出て行きなさい。この厳粛な働きにおいて、あらゆる軽率さと軽薄さはわきへ捨てなければならない。あなたの制せられた悔いた心をもって、涙を流して出て行きなさい。そのとき疑いの余地なく喜びをもってまた、東をたずさえて帰って来るであろう。あなたは輝かしい成功を得ることができる。あなたはキリストと共に働く共労者となることができる。排他的であってはならない。あなたが交わるのを喜ぶわずかな人々だけを求めて、他のすべての人は彼ら自身で何とかするのにまかせておいてはならない。一人のうちに弱さを、また別の人には愚かさを見出したとする。その時に彼らから遠ざかって、ただ自分がほとんど完全だと思う人々とだけ関わってはならない。あなたが蔑んだ魂こそ、あなたの愛と同情を必要としている。弱い魂がひとりで苦闘するがままに放っておいてはならない。あなたの助けや祈りなしに自分自身の心の情欲と格闘するがままにするのではなく、果たして自分自身も誘惑されることがありはしないか考えてみなさい。もしあなたがこうするなら、神はあなたが自分自身の弱さのままに放置なさることはない。あなたには神の目からご覧になってあなたの責める人々の罪よりも大きな罪があるかもしれない。遠く離れて、「わたしはあなたよりもきよい」と言うてはならない(イザヤ 65:5 欽定訳)。キリストはご自分の神性のみ腕で人類を囲んでこられた。(ビュー・アofd・ワルド 1889年6月11日)

4月1日

愛の祝福

「おのが道を全くして、主のおきてに歩む者はさいわいです。主のもろもろのあかしを守り心をつくして主を尋ね求め」(詩篇 119:1,2)

十誡はその心が愛に満たされ、無限の知恵があり、決して間違いを犯すことのない天の神から出ている。このお方は過ちを犯すにはあまりに賢く、ご自分の要求に従ういかなる者にも害を及ぼすにはあまりにも良いお方である。(わたしたちの高い召し 262)

多くの宗教教師たちは、キリストはご自分の死によって律法を廃されたのであり、それゆえに人はその要求から解放されている、と主張する。なかには、律法を重苦しいくびきであると言い、律法の束縛とは対照的に、福音の下において自由が享受できると主張する人々もいる。

しかし、預言者や使徒たちは、神の聖なる律法をそのようには見なさなかった。「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます」(詩篇 119:45)。キリストの死後に書いた使徒ヤコブは、十誡を「尊い律法」「完全な自由の律法」と言っている(ヤコブ 2:8,1:25)。そして、十字架から、半世紀の後に、ヨハネは、「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の律法を行なう者」はさいわいであると声明している(黙示録 22:14 英語訳)。

キリストがその死によって天父の律法を廃したという主張には、なんの根拠もない。もしも律法を変えたり、廃止したりすることができるのであれば、人間を罪の刑罰から救うためにキリストが死なれる必要はなかった。キリストの死は、律法を廃止するどころか、それが不変のものだということを証明しているのである。神のみ子は、「律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする」ために来られた(イザヤ書 42:21 英語訳)。「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思っはならない。」「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはな」と彼は言われた(マタイ 5:17,18)。また、ご自身について、「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と宣言しておられる(詩篇 40:8)。

神の律法は、その性質そのものから考えても、不変のものである。それは、その制定者の意志と品性の啓示である。神は愛である。そして、神の律法は愛である。(各時代の争闘下巻 193,194)

律法は魂を改心させる

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ（改心させ）、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」（詩篇 19:7）

詩篇記者は「主のおきては完全であって」（詩篇 19:7）と言う。エホバの律法はその単純さ、すべてを含むこと、その完全さにおいてなんと素晴らしいものであろうか！それは非常に簡潔なので、わたしたちは一つ一つの教訓をたやすく記憶し、しかも神の御旨全体を表現するほど遠大で、外面的な行動だけでなく、心の思想と意図、願望と感情を認識することができる。人間の法律はこれを行うことができない。それらは外に現われた行動だけに対処できる。人は違反者でありながらその行為を人の目から隠すことはできるかもしれない。彼は犯罪者—盗人、殺人者、姦夫—かもしれないが、知らなければ法律は彼を有罪と宣告することはできない。神の律法は、魂にわき起こるが、意志ではなく機会がなかったために、外面的な行為にあらわれなかった嫉妬、妬み、憎しみ、深い恨み、復讐心、情欲、野望に注目する。そしてこれらの罪深い感情は「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれる」その日に考慮される（伝道の書 12:14）。（セレクトッド・メッセージ 1 巻 217）

人間は、律法がなければ、神の純潔と神聖さ、あるいは自分自身の罪と汚れについて、正しい考えを持つことができない。罪についての真の自覚もなく、悔い改めの必要も感じない。自分たちが神の律法の違反者であるという失われた状態を悟らず、キリストの贖罪の血の必要を自覚しないのである。心の根本的変化も生活の改変もなしに、救いの希望を受け入れる。（各時代の斗争闘下巻 196）

神は、父祖、ダビデ、預言者、使徒の時代にそうであられたように、今日も罪から救うのに力強いお方である。神がご自分の民を彼ら自身の不法から救い出された聖なる歴史の中に記録された多くの事例により、今の時代のクリスチャンは、熱心に神の教えを受けるものとなり、裁きの厳密な調査に耐え得る品性を完成させるのに熱心になるべきである。（教会への証 4 巻 15）

4月3日

わたしたちの眼を明らかにする

「主のさとしは正しくて、心を喜ばせ、主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする。」(詩篇 19:8)

あなたは神の律法を研究するようにと招かれている。神への愛と人への愛の原則から生じている十誡をとって、あなたがそれらの要求に調和しているかどうかを見なさい。もしあなたがそれらのどの一つも破っていないなら、あなたは願うことを求めることができ、それはかなえられるであろう。なぜならあなたは神の恩寵のうちにいるからである。自分が正しいかそうでないかをあなたが決定することのできる唯一の方法は、律法の光と神の御霊によって自分の心を探ることによってである。鏡を見るとあなたの外見に欠陥があるのが明らかになるように、律法の道徳上の鏡はあなたの品性の不完全さ、あなたの心の真の状態を明らかにする。自由の完全な律法を研究し、天にふさわしくなりたいと願っている者は神の助けが必要であることに気づき、祈りの中でしばしば神の御前にいるのが見出される。

真理によって聖化されている者だけが、永遠の命の相続人として受け入れられる。神がご自分の子らに持たせようとなさる聖化は、人々が自分の神聖さを自慢し、「聖であって、正しく、かつ善なるものである」(ローマ 7:12) 神の律法を拒むように導く品性ではない。聖書の聖化は神のご要求への絶対的な従順である。キリストはだれをも罪の汚染の中で救うために死なれたのではない。このお方は「律法の要求(義)が」ご自分に従う者の内に「満たされる」ようにと(ローマ 8:4)、「おのれの民をそのもろもろの罪から救う」(マタイ 1:21) ために来られたのである。十字架上における神の御子の死は、エホバの教訓の不変的な特性を示している。そうであればわたしたちは一つ一つの違反や不従順のために、どれほど悲しむべきであろうか。尊い救い主はわたしたちの不法のゆえに傷つけられた。聖化を主張しながら律法の拘束力のある義務を認めることを拒む者の心の中に、神の戒めへの恨み(敵意)がある。律法に言及するや否や彼らの心に憎しみが起こる。彼らは律法が廃されていると信じていると公言する。しかしもし律法が廃されているなら、わたしたちがキリストの審判の座の前で判決を受ける基準は何であろうか。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1888年2月10日)

最初の一步

「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(ローマ 8:2~4)

神の律法を守るのに失敗するがゆえの神への悔い改めはクリスチャン生涯における最初の一步である。わたしたちの主イエス・キリストへの信仰は、過去の罪の許しのためにこのお方の血の功績を求めるが、その一方でわたしたちを神性にあずかる者とする。「神の律法に従わず、否、従い得ない」肉の心は霊的にされ、キリストと共に「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と叫ぶ(ローマ 8:7, 詩篇 40:8)。

キリストを信じていると言う者が多くいるが、彼らは信じているのであろうか。彼らは神の律法を喜ぶ霊的な思い、キリストの思いを持っているのであろうか。彼らは神の子であると主張するが、神のみ働きをしない。わたしたちはこの問題においてどのような失敗をする余裕もない。なぜならわたしたちの永遠の利益がかかっているからである。正しい信仰は信心深い働きの中で明らかにされ、生活全体を神の律法に調和させる。……わたしたちは海図を探り、自分たちが義人のために敷かれた大路におり、謙遜な従順の道を歩いていることを魂に確信するために奮起すべきではないだろうか。わたしたちは「足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい」と警告されている(ヘブル 12:13)。わたしたちは他の人々にとって模範であり、もしわたしたちが誤った進路を追い求め、他の人々を正しい道から離れるよう導くなら、わたしたちには説明責任がある。

わたしたちは真の信仰を持つことの重要性を見ることが出来る。なぜならそれはそのクリスチャンの生活と行動の原動力だからである。しかし感覚は信仰ではなく、感情も信仰ではない。わたしたちは自分の働き、思想、感情を、み言葉によってテストしなければならぬ。真の信仰は神のみ声によって深く印象づけられ、それに従って行動する。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1887年11月24日)

4月5日

神の御言によって懲らしめを受け、教えられる

「主よ、あなたによって懲らされる人、あなたのおきてを教えられる人はさいわい입니다。あなたはその人を災の日からのがれさせ……られます。」(詩篇 94:12,13)

この贖いの大きい日に自分の罪を告白し、自分の不法を許していただくにあたって、神のあわれみと愛を認めるのはわたしたちの義務である。主がわたしたちをよこしまな道から救うために与えて下さる警告をこのお方に感謝しよう。わたしたちの生活に変化を表すことによってこのお方の慈しみを証しよう。主がご自分の道を歩んでいない者を警告しつつ譴責を送られた者が悔い改め、へりくだりと悔悟の念をもって告白するなら、主はたしかに彼らを再び好意をもってお受け入れになる。もし彼らが神の戒めを守ることによってこのお方をあがめるなら、彼らはこのお方によって高められる。神は彼らに何が真の名誉、力強さ、勝利を構成するのかをお教えになる。主のみ言葉を軽蔑する者、すなわち悪を譴責し義を奨励する神の託宣を持っていながら、自分自身の道を歩み続け、自己高揚の願いにふけて、自分たちに信頼している人々を誤った道に導く人々は、神からまったく捨てられないとしても、自分自身にうんざりする。

神はご自分の民の魂を救う希望をもって彼らを懲らしめられる。……自己を厳密に吟味しよう。自分は他の人々と同じようにしているのであるから、道から遠くはずれるはずはないと言って、市民という衣の下に自分を隠そうとしてはならない。しかり、あなたは今日生きている多くの背教者がしているようにすることができる。ある者は今ですらこの立場に踏み込もうとしている。しかしその光景は喜ばしいものであろうか。もし他の人の経験をわたしたちの前において、主の道に反した道をわたしたちが歩んで罰を受けるなら、わたしたちは自分以外のだれを責めることができよう。

ああ、神の民がこれらの事柄の重要性を深く認識することができると良いのに! ああ、従順と聖潔の狭い道から離れるすべての者があるがまにそれを見ることができるとよいのに! ああ、男女がかつてしたことがないほど主を求めることができるとよいのに! (世界総会冊子 1900年7月1日)

真の繁栄への鍵

「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える。」(詩篇 1:1～3)

人々に神の戒めを軽んじるように教えるものは、不従順の種をまき、不従順を刈り入れる。神の律法によって課せられている拘束を全部取り去るならば、人間の法律もまもなく無視されるであろう。神は不正な慣習、貪欲、虚偽、詐取を禁じておられるので、人々は自分たちが世俗的に繁栄する道の障害として、神の戒めをやすやすとふみにじる。しかし、これらの戒めを追い払った結果は、彼らの予期しなかったものとなるであろう。もし法律に拘束されないならば、違反を恐れる必要があろうか。財産はもはや安全ではなくなる。人々は力づくで隣人の持ち物を手に入れ、最も強い者が最も富める者になる。生命そのものが尊重されなくなる。結婚の誓約は、もはや家族を守る神聖なとりでとしての用をなさなくなる。力を持っている者が、もし望むなら、隣人の妻を腕づくで取るようになる。第五条は第四条とともに廃される。子供たちは、親の生命を取ることで自分の墮落した心の願いを達成できるならば、そうすることを恐れなくなる。文明社会は強奪者、暗殺者の大群と化し、平和、休息、幸福は地上から消滅してしまう。(各時代の争闘下巻 346,347)

すべての繁栄は神のご要求への服従にかかっている。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 5月20日)

十誡の「せよ」、「してはならない」というのは、もしわたしたちが宇宙を統治している律法に従順を表すなら、わたしたちに保証された十の約束である。

二枚の石板の上の聖なる律法の中に神の指で刻まれていない道徳上の教訓は、聖書のどこにもない。……わたしたちの天父はつねに、わたしたちの命の第一として、その喜びと繁栄として、その光と能力として、そしてわたしたちのとこしえの分として、心に大切にされるべきである。(神のむすこ娘たち 56)

4月7日

神の律法に服することにある平安

「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません。」(詩篇 119:165)

真理の率直さとはっきりとした証のゆえにたやすくつまずく者は、神の真理を傷つけ、二心のまま、熱くもなく冷たくもなく、教会に重荷を与えながら伝え、ついに神はそのみ口から彼らを吐き出される。(原稿川-ス 15,329)

律法への服従はわたしたちの救いだけでなく、わたしたちが交わっているすべての人の幸福にとって必要不可欠である。……しかし有限な人間は、創造主ご自身が人間の必要に合わせてくださったこの聖なる公正な良い律法、自由の律法を、だれも負うことのできないくびき、奴隷のくびきとして人々に示す。しかし律法を耐え難いものと見なすのは罪人であり、その教訓の中に麗しさを見ることができないのは違反者である。なぜなら肉の思いは「神の律法に従わず、否、従い得ないのである」(ローマ 8:7)。

「律法によっては、罪の自覚が生じるのみである」(ローマ 3:20)。なぜなら「罪は不法」だからである(ヨハネ第一 3:4)。人に罪を悟らせるのは律法によってであり、彼らは救い主の必要に気づく前に、自分が神の怒りにさらされた罪人であると感じなければならない。サタンは、罪の嘆かわしい性質を人が低く評価するように絶えず働いている。そして神の律法を足の下に踏みにじる者は大欺瞞者の働きをしているのである。なぜなら彼らは、罪を明らかにし、違反者の良心にそれを悟らせる唯一の規則を拒んでいるからである。

罪深いにも関わらず、往々にして軽く見過ごされるが、実のところ、品性の土台でありテストであるこれらの秘かな目的にまで、神の律法は及ぶ。それは、もし罪人が自分の道德上の品性について正しい知識を持ちたければ、覗き込むための鏡である。そして彼が義の大いなる標準によって自分自身が有罪と判決されたのを見るとき、彼の次の行動は自分の罪を悔い改め、キリストによる許しを求めることである。これをするのに失敗するなら、多くの者は自分の欠点を示す鏡を壊そうとし、彼らの人生と品性における汚れを指摘する律法を無効にしようとする。(セレクトド・メッセージ 1 巻 218,219)

川のように平安

「どうか、あなたはわたしの戒めに聞き従うように。そうすれば、あなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになり、」（イザヤ 48:18）

あなたはキリストのくびきを負うのであろうか。これをするならあなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになる。（原稿リ-ス 21,279）

禁じられた喜びと罪深い放縦に喜びを求めているあなた、来なさい。キリストから散らされているあなた、カルバリーの十字架を見上げなさい。あなたが賢くなる機会を得、命の泉と真の幸福を求める間、あなたのために苦しんでいる王なる犠牲を見つめなさい。あなたがこの世で会わなければならないいささいな不便と少々の試練に文句を言い、つぶやくあなた、来て、あなたの信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げなさい。このお方は王座、最高指揮権を捨て、ご自身の神性を脇へおき、人性をまとわれた。このお方はわたしたちのために拒まれ軽蔑された。わたしたちがご自分の貧しさによって富む者となるために、このお方は貧しくなられた。キリストの苦しみを信仰の目で見つめているあなたは、自分の試練、悲哀の話をするのであろうか。ご自分をののしっている者、ご自分を殺そうとしている者のためにキリストの青ざめた震える唇から出た「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」という祈りを覚えていながら、あなたは心の中に復讐を抱くことができるであろうか（ルカ 23:34）。

自分の心の中に場所を求める自尊心と虚栄を抑え、悔い改めと信仰によってキリストとの親しく聖なる交わりの中に自分自身を連れて行くのは、わたしたちの前にある働きである。神の御子がわたしたちを墮落と罪の奴隷からご自身の右側にある座に引き上げるために甘受されたへりくだりの深さに、わたしたちはしり込みしてはならない。わたしたちは自己を否定し、自尊心と絶え間なく戦わなければならない、イエスのうちに自己を隠し、自分の品性と会話にこのお方が現れるようにしよう。わたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみが重荷を負わせているお方を絶えず見上げる間、わたしたちはこのお方のようになるための力を得る。わたしたちの生活、態度は、わたしたちが自分の贖い主とわたしたちのためにあれほどの犠牲を払って働かれた救いをどれほど高く評価しているかを証する。そしてわたしたちが喜んでイエスに自分を結びつけ、幸福なとりこにする間、わたしたちの平安は川のようなのである。（サイン・オブ・ザ・タイムズ 1887年3月17日）

4月9日

キリストとその律法を瞑想する

「この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにするされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。」(ヨシュア 1:8)

現代ほどわたしたちが義の道を注意深く歩み、もっと熱心に祈る必要のあるときはない。キリストが地上におられたときに存在したのと同じ偏見の精神が、今神の戒めに対して存在する。であるから、もしわたしたちがサタンの敵意を起こさせることなく戒めを守ることができると考えたら、間違いを犯す。しかしわたしたちは決して贖い主が苦しめられた百分の一も苦しむことはない。

わたしたちはキリストがわたしたちのためにしてくださった犠牲を瞑想すべきである。このお方は、ご自分の誉れと栄光と大権を後にして、わたしたちの地球に來られ、悲しみの人となり、病を知られた。御父が天からお送りになったお方を、世が受け入れず信じなかったとは驚くべきことに思われる。このお方は救うためにこられたその人々に向かって、「あなたがたは、命を得るためにわたしのものにこようともしない」と仰せになった(ヨハネ 5:40)。このお方は町々に入り、ほとんどの者がご自分の使命に関心を示さないことに気づいたとき、どれほど深く悲しまれたことであろうか。どの魂もその御目には尊かった。しかし時と感覚の事柄が人々の注意を引き、贖い主の功績に対して彼らの目を盲目にした。わたしたちの救い主が会われた多くの失望を考えると、このお方が悲しみの人であったことを不思議には思わない。わたしたちが、自分たちの愛する者に真理をもたらすために熱心に努力しても彼らが聞こうとしないとき、どれほど悲しく感じるであろうか。キリストはその特質がわたしたちよりももっと高く、もっと聖なるお方であるので、わたしたち以上にこの悲しみを鋭く感じられた。救い主が耐えられたことを考えると、わたしたちは自分の働きで失望することができるであろうか。わたしたちには人々の前にもたらすべき尊い真理があるので、命があるかぎりわたしたちの声をあげ、神の律法を犯すことは罪であることを宣布しなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889.5.27)

くびきから希望へ

「自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながってはならない。」(ガラテヤ 5:1)

この世の標準に到達しようと努めるために思いわずらいをし、心を痛めている人が多い。彼らは現世的な働きを選び、その悩みを負い、社会の習慣を取り入れて、そのため品性は傷つき、人生に疲れ、次から次におこる心配で生命力が消耗してゆく。わたしたちの主は、こうした奴隷的なくびきを捨てるように希望されている。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われて、主のくびきを負うように招いておられる(マタイ 11:30)。(ミズリ・オブ・ヒーリング 465)

神の律法が無視される時、家族と社会に最大の不幸が結果として生ずる。より良い事柄への唯一の希望は、エホバの教訓を忠実に固守することの中に見出される。不信心なフランスはかつて神の権威を拒もうと試みたがなんと恐ろしい光景が後に続いたことであろうか!人々は神の律法を奴隷のくびきとして無視し、自分たちの自慢した自由の中で、これ以上ない暴君の支配の下に自分たちを置いたのである。無政府状態と流血がその恐ろしい日々を支配した。そのとき、秩序と統治の基礎をむしばむ確かな方法は、神の律法を無効にすることであることを世に証明した。(神のむすこ娘たち 54)

キリストに従う者はだれでも神の戒めを守る。これはわたしにとって都合が良いであろうかという質問が起きる。しかし神は、あなたの都合を妨げるのでご自分の律法を守るようにとあなたに要求なさらないと都合よく思い込むなら、あなたは悲しい間違いを犯す。あなたの救いの将の代わりに別の指導者があなたを指揮している。イエスは最も厳しい誘惑に苦しみ、耐え、ついには、神の律法は不変であり、一点一画もすたることはないことを人類家族一人びとりに明示するためにカルバリーの十字架上でご自分の命をお与えになった。十字架はその不変性の記念碑であり、このようにしてそれは全世界の前に、天使たちの前に、全人類の前に、律法は永遠の支配を及ぼすのを止めることはできないことを明示している。それは神のみ座を支えており、またそれはその統治の規則である。(ハイブル・エー 1894年6月11日)

4月11日

本物の自由を見出す

「かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。」(ローマ 8:21)

神の愛の表れには、議論、討論、雄弁の現れに勝る説得力がある。キリストの愛は、自己否定、自己犠牲、死に表されたように、このお方が人類の罪の下に身を低くされたように、同情心に触れ、頑な心を溶かす。潔白で純潔な神の御子が罪のために苦しまれた事実、罪のないお方が罪ある者の刑罰を負われた事実、義なるお方が不義なる者の罰を耐えられた事実は心を砕く。そして、イエスが上げられるとき、罪の自覚が魂を突き刺す。キリストという無限の賜物を与えるように駆りたてた愛は、悔い改めている者に強く迫り、神にすべてを捧げさせる。…

キリストを受け入れる者は、自分のためのこのお方のへりくだり、苦しみ、死のうちにあらわされたこのお方の愛の現れによって溶かされ、征服される。彼らはこのお方を自分の身代わり、保証人として見つめ、またこのお方が、神の正義と調和し、かつその律法の誉れを立証する計画を通して、彼らの完全な救いを成し遂げて下さることを自ら誓っておられるものとして見つめる。しかしイエスのへりくだりを見る時強い感情に揺り動かされ、自分がこのお方のへりくだりと苦しみを分かち合う者にならなければならないことを理解するとき、このお方のみ足の跡に従うのをしり込みする者がいる。イエスが無条件に自己を明け渡すようにとお求めになるとき、このお方の統治に従うように、そして謙遜な服従と絶対的な信頼のうちに歩くことをお求めになるとき、彼らの性質は反逆する。高慢な心は「いいえ、わたしたちは独立したい」と言う。しかしこれはあなたがたが持つようにイエスが望んでおられるまさにそのことである。それは、このお方がカルバリーの十字架上で死なれたその罪の奴隷状態から、あなたが自由になることができるということである。このお方は、あなたがご自分を信じる信仰によって本当に自由になり、神の子の栄誉に満ちた自由のうちに堅く立つことができるために死なれた。

あなたの贖い主の苦しみを熟考しなさい。そうすればあなたは罪の上に抑制が置かれるのを見出す。犯された罪の一つ一つは、キリストの屈辱の再現であり、このお方の傷口を再び開くことである。(ハイデル・エー-26,1894年)

何が真の独立か

「主の霊のあるところには、自由がある。」(コリント第二 3:17)

強情はしばしば独立と混同されるけれども、独立は強情ではない。G兄弟が意見をねりあげ、かなりの確信と公な性質をもって家庭や教会内で述べるとき、彼はそのときにあたかも自分の生み出すすべての議論によっても自分が正しいかのように見せる傾向がある。彼は危険のうちに、すなわち自分の執着心によって自分の目を閉じ、その良心に背く大きな危険のうちにいる。なぜなら彼に敵の誘惑が強く臨むからである。もし彼が納得しようと思えば、彼を納得させるのに十分な光と証拠を目の前にしても、意見についての彼の自尊心は、譲るのが難しい。彼は、もし自分が間違っていることを認めなければならないなら、それは自分の判断力と識別力の名折れになると考えている。

G兄弟、あなたは自分の魂を失う危険が大いにある。あなたは傑出したいと思っている。あなたはときどき、自分がなおざりにされているのではないかと深く感じる。あなたは幸福な人ではない。もしあなたが、真理があまりにも厳密なために、キリストに従う多くの者がしたように、はっきりとしたみ言葉と事実につまずいて神の民を離れるなら、あなたは幸福にはならない。あなたは自分というものを連れ歩くがために、幸福な人にはなれない。あなたは正しくない。あなたは自分で自分を悩ませているのである。あなたの気質があなたの敵なのであって、どこへ行っても、あなたは自分と共に不幸という自分の重荷を連れて行くのである。過ちに気づいたらすぐにそれを告白するのは名誉なことである。

神のみ働きとの関係において、あなたが誤りをみつける事柄が多くある。なぜならそうするのはあなたにとって自然だからである。そして神があなた自身に関してお示しになった光に、あなたが顔をそむけたがゆえに、あなたは識別力を速やかに失いつつあり、これまでもまさって、あらゆることにあら探しをする用意ができています。あなたは独断的な確信をもって自分の意見を出し、他人の質問を自分の意見に関する個人的な悪口とみなす。真の精練された独立は、経験ある人、知恵ある人の勧告を求めることを退けることは決してなく、敬意を払って他の人の勧告を扱うのである。(教会への証 4巻 239,240)

4月13日

真の自由の本質

「わたしたちは女奴隷の子ではなく、自由の女の子なのである。」(ガラテヤ 4:31)

自己義はこの時代の危険であり、魂をキリストから引き離す。自分の義に信頼する者は、救いがキリストを通してどのように来るかを理解できない。彼らは罪を義と呼び、義を罪と呼ぶ。彼らは違反の罪を正しく評価せず、律法の恐ろしさを理解しない。なぜなら彼らは神の道德の標準を尊重しないからである。今日、偽の改心が非常に多くある理由は神の律法の正当な評価があまりに低いからである。人々は品性を量るのに、神の義の基準の代わりに自分たちの基準を立ててきた。彼らはガラス越しにぼんやりと見、人々に聖化の誤った考えを示し、このようにして自己本位、自尊心、自己義を励ましてきた。多くの人に支持されてきた聖化の教義は欺きに満ちている。なぜならそれは生来の心にへつらっているからである。しかし罪人に説教できるもつとも親切なことは、神の律法の拘束力についての真理である。信仰と働きは手に手をとって進まなければならない。なぜなら働きのない信仰はそれだけでは死んだものだからである。(信仰と働き 96,97)

イエス・キリストを信じる者はだれも神の律法への奴隷状態の下にはいない。なぜならその教訓に従うものにとって、このお方の律法は命の律法であり、死の律法ではないからである。律法の靈性を把握するすべての者、その力を罪の探知機としての力を悟るすべての者は、救済的なイエス・キリストの犠牲のうち彼らのために備えられた贖罪を受け入れないかぎり、サタン自身とまったく同様に無力な状態である。……キリストを信じる信仰によって、律法の一つ一つへの服従は可能となる。(SDA バイブル・コメンタリー [E.G. ホワイト・コメント] 6 巻 1077)

わたしたちは真理の喜びの中を歩むことができる。わたしたちには奴隷のくびきは必要でなく、かえって、慰め、わたしたちを元気づけ、心の内に神への快い調べをかなでるようにする、大いなる喜びのよき知らせである。……

真理は魂の最も深い奥まったところへ届き、キリストの精神に似ていないあらゆるものを清め去らなければならない。そして、その空いたところはこのお方の品性の特質で満たされなければならない。(わたしたちの高い召し 33)

心から従うことを学ぶ

「神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して」(ローマ 6:17)

あなたは自分の特権すべてとあなたの手を通った財産すべてに対して説明責任がある。あなたは良心と神の是認を犠牲にして自分自身の快樂と利己的な満足を求めてきた。あなたは、ご自身の尊い血潮であなたを買い取られた救い主に対して責任のあるキリストの僕のように行動しなかった。……

あなたはキリストの僕であると公言している。それならばあなたはこのお方に進んで快く従う従順をお捧げするであろうか。あなたはキリストの十字架の兵士になるようにとあなたを召しておられるお方をどのようにしたら、一番お喜ばせてできるか熱心に尋ねるであろうか。あなたは……十字架を掲げ、その中で得意になって喜ぶのであろうか。神に対してこれらの質問に答えなさい。あなたの行動はすべて、それらは秘密になっているとあなたが考えようとも、あなたの天父には周知であり、何も隠れることなく、覆われるものは何もない。あなたの行動とそれらを引き起こす動機は、その御目に明らかである。このお方はあなたの言葉と考えをすべて完全に知っておられる。あなたの考えを支配するのはあなたの義務であり、むなしい想像に対して戦わなければならない。あなたは、自分の考えが生来のまま抑制なく走ることを許しても罪はないはずだと考えるかもしれないが、そうではない。あなたはむなしい考えにふけることについて神に対する責任がある。なぜならむなしい想像から罪の実行が生じ、思いがいつも考えていることを実際に行なうようになるからである。あなたの考えを治めなさい。そうすればあなたの行動を治めるのがもっと容易になる。あなたの考えは聖化される必要がある。パウロはコリント人に、「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる(想像とあらゆる傲慢なこと) 障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、」と書いている(コリント第二 10:5)。あなたがこの立場に来るとき、献身の働きをあなたはもっとよく理解する。……あなたの考えは純潔で、汚れなく、高められ、あなたの行動は純潔で罪のないものとなる。あなたの体は聖化と栄誉のうちに保たれる。……あなたは大いなる事柄と同様にささいなことにも自己を否定するよう要求される。(教会への証 3 巻 82,83)

4月15日

だれが自由に歩むか

「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます。」(詩篇 119:45)

人々の手首に手かせをつけるのは何であろうか。それは律法への服従であろうか。否、決してそうではない。律法を守る者は自由に歩む。くびぎにつながれているのは、違反者である。(ザインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889年9月30日)

しばらく前、わたしたちがニューヨーク州オズエゴを通り抜けていたとき、二人のいかめしい警官と、大きな鉛製の玉を手につけている一組の男女を見た。わたしたちは、彼らがニューヨーク州の法律を守っていたという結論に達することはなかった。そうではなく、それを破っていたのであって、彼らが法律の違反者であるがゆえに自由に歩くことができなかつたのである。わたしたちはニューヨーク州のすべての法律と神の律法に調和して生きようと努めてきた。そしてわたしたちは自由に歩んできた、すなわち律法のくびぎの下にはいなかった。もしわたしたちがキリストの生涯に調和し、神の律法に調和して生きるなら、律法はわたしたちに有罪を宣告しない、すなわちわたしたちは律法のくびぎの下にはいない。

わたしたちが追い求めることのできる二つの進路がある。一つはわたしたちを神から離れるよう導き、その王国からわたしたちを締め出す。そしてこの道にはうらやみ、争い、殺人、すべての悪い行為がある。わたしたちが従うべきもう一つの進路はそれを実行すると喜び、平安、調和、愛が見出される。愛、それはわたしたちが大切にすべきものである。そしてわたしたちが最も必要としているのはわたしたちの心の内にあるキリストの愛である。わたしたちは他のなにものにも勝ってこの尊い恩恵を欠いており、最も必要なのはイエスの胸に燃えている愛である。そしてそれが心の内にあるとき、それ自身が現れる。わたしたちは心の内にイエス・キリストの愛を持ち、それが他の人々に出て行かないようにすることができるであろうか。それはそこにあることを証することなく存在することはできない。それは言葉の中に、表情そのものの現れの中にそれ自身を表す。(ビュー・アソッド・ヘラルド 1887年1月4日)

神の戒めは奴隷のくびぎではなく、それらへの服従の中にわたしたちが恥じるものは何もない。わたしたちは、神の律法を守るよう要求されていることによって、厳しく制限されていると感じるべきではない。主はわたしたちにとって善であるものを何一つわたしたちに制限なさることはない。わたしたちはこのお方の教訓への不従順を恥じるべきである。(ザインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894年10月15日)

神の道のうちに喜ぶ

「あなたのおきてがわが喜びとならなかったならば、わたしはついに悩みのうちに滅びたでしょう。」(詩篇 119:92)

聖書の宗教が、その教えに従おうとする者に課す拘束に関して残念そうな様子で話す者がいる。彼らは拘束が非常に不利なものであると考えているように見える。しかしわたしたちには、神がわたしたちと敵の陣地の間に天来の防壁を建ててくださっていることを、神に心から感謝すべき理由がある。生来の心には、個人の最高の発達という結果をもたらすためには、多くの人が考えることには従わなければならないと考える傾向がある。しかし、人が重要不可欠であると考えることが、神は人類にとって想像するような祝福とはならないことをご存知である。なぜなら品性のこれらの特性そのものの発達は、彼らを上なる住まいに適さない者とするからである。主は、かすを金から分けることができるように、人々をテストと試練の下におかれる。しかしこのお方はだれをも強いることはなさらない。このお方は足かせ、ひも、障壁で縛ることはなさらない。なぜならそれらは不満を減らすよりは募らせるからである。……

宗教は活動的な働く原則であり、人生の厳しい現実のために十分な耐久性を供給する。……宗教はそれを持っている者に絶えず品性と知性と感情を抑え、支配し、釣り合いをとる力を与える。宗教には神の権威をもって説得し、嘆願し、あらゆる能力と愛情を意のままにする力がある。宗教……ああ、わたしたちがみなその働きを理解するとよいのに！それはわたしたちを最も重い義務の下に置く。わたしたちが自分自身をキリストに結びつけるとき、キリストが歩まれたように歩むと厳粛に誓う。

わたしたちを暗闇からその驚くべきみ光の中に招き入れてくださったお方をたたえるのはわたしたちの特権である。……主の道は守られねばならず、このお方の道は義のうちに高められる。クリスチャンは、自分たちの態度と言葉と品性で自分たちが天の家系であることを表すべきである。わたしたちはクリスチャンであることと、あえて正しくあることを、決して世に対して詫びる必要はない。

純潔な宗教は平安、幸福、満足をもたらす。信心はこの世においても来るべき世においても益となる。(わたしたちの高い召し 333)

4月17日

わたしたちの優先事項をはっきりさせる

「主よ、あなたの定めのを道をわたしに教えてください。わたしは終りまでこれを守ります。わたしに知恵(悟り)を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。」(詩篇 119:33,34)

わたしたちは自分自身の心を研究し、自分自身のある基準によって自分自身の行動を正すべきであるかのように見えるかもしれない。しかしそうではない。これは改革ではなく、改悪の働きになる。その働きは心のうちで始まらなくてはならない。そうすれば精神、言葉、表情、生活の行動が、変化のおきてていることを表すようになる。キリストが豊かに注いでくださった恵みによってこのお方を知ることで、わたしたちは変えられ、真理を信じる信仰によって聖化される。内なる命は成長して強くなり、ふるまいがことごとく神のみ旨に一致するようになる。わたしたちは自分が無に等しいことを感じ、神にまったく依存していることを悟るがゆえに、へりくだりが培われる。(ユース・インストラクター 1893年8月31日)

従順は心から生じなければならない。それはキリストと共なる心の働きである。わたしたちがキリストに榮譽を帰そうと努めるとき、失望がわたしたちに来る。敵は全力を挙げて、わたしたちを正しいことからそらそうとするであろう。しかし、それだからといって、わたしたちは悪に対する戦いをあきらめてしまう必要はない。わたしたちの義務は注意深く自分の品性の弱点を守り、神の恵みによってそれらを強くしようと努めることである。神から何の力も受けずに生きている人は一人もいないし、その力がもたらされる源は最も弱い人間に開かれている。もしわたしたちが、尽きることのない力の源であられる神に近づくならば、次の約束の成就を認めるようになる、「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 16:24)。もしわたしたちが十字架を掲げ、結果は、わたしたちが守ろうとしている律法を下さった神におゆだねするなら、「主のすべての道はその契約とあかしを守る者にはいつくしみであり、まことである」ことを見出すようになる(詩篇 25:10)。

人性においてキリストが律法を生きられたように、わたしたちも力を求めて強いお方をつかむならば、そのようにすることができる。わたしたちが自分自身では何もできないことを自覚するとき、神に誉れと栄光を帰すために知恵を受けるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1897年3月4日)

従うこと、そして愛すること

「あなたのあわれみをわたしに臨ませ、わたしを生かしてください。あなたのおきてはわが喜びだからです。」(詩篇 119:77)

あなたの不信の態度によって、神を不公平や不忠実のとがで責めてはならない。あなたの疑いは、このお方のみ約束の真実性に非難を投げかける。生きた信仰のうちにイエスのみ許へ来て、このお方のみ言葉を行う者となる時、あなたは主がいつくしみ深いお方であることを味わい知り、悟るようになる。あなたはすべての人に、「このお方の打たれた傷によって、わたしたちはいやされたのだ」というようになる。あなたはイエスのことを、ご自分によって神の許へ来るすべての人を最高にまで救いたいとのぞみ、救うことができになるお方として考え、イエスのことを語るようになる。もしあなたが自分の救い主としてキリストを信じるならば、このお方の完全な服従があなたの勘定に記載される。……

もしあなたが、自分は罪深いからと言って、イエスの許へ来ないのであれば、あなたはいつまでも罪深いままであり、自分の罪のうちに死ぬ。あなたはこのお方に絶対的な信仰をもってより頼まない限り、清めの力を感じることはできない。あなたはキリストの許へ来て完全にしてもらおうのであろうか、あるいはいつまでも不信仰のままできて、なおも自分のみじめな状態を嘆くのであろうか。見て、生きなさい。眺めることによって、あなたはこのお方のみすがたに変えられていく。(現代の真理 1890年1月30日)

あなたの生活において、神のすべての戒めへの服従をなしとげるのは、イエスを信じる信仰である。あなたはキリストを自分の将として受け入れ、このお方の軍に入隊しないのであろうか。あなたは暗黒の君の黒い旗じるしを後にして、インマヌエルの君の血染めの旗じるしの下で行軍しないのであろうか。あなたは自分の将の命令に従い、イエス・キリストの良き兵卒として困難に耐え、信仰の良き戦いを戦い、永遠の命をつかまないのであろうか。あなたは不法の状態から服従と愛の状態へと出てこないものであろうか。イエスを信じる人々には、神の律法に対する恨みはない。彼らはこのお方の律法を喜び、もした自分たちの主人に誉れを帰し、魂をこのお方の王国のために勝ち得ることさえできるなら、自己否定を大したことはないと考え。わたしたちは日ごとに十字架を掲げ、わたしたちの大切な贖い主のみ足の後に従わなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888年2月14日)

4月19日

希望をもたらす約束

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。人はもはや、おのおのその隣とその兄弟に教えて、『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。」(エレミヤ 31:33,34)

[キリストの初臨の前に] 全世界は腐敗の汚物だめになりつつあった。このように不和と墮落の成分をもったかたまりの中に、新しいパン種が投じられるというただ一つの希望が人類にあった。そこには、人類に新しい生命力がもたらされ、神の知識が世に回復されるはずであった。キリストは、この知識を回復するためにおいでになった。彼は、神を知っていると公言している人々が、神を誤り伝えているその偽りの教えをとりのぞくためにおいでになった。彼は、神の律法の性格を明らかにし、ご自身の品性の中に聖潔の美しさを表わすためにおいでになった。

キリストは、蓄積された永遠の愛をもって、この世においでになった。彼は、神の律法につけ加えられて、これを煩わしいものにしていたこまかい規則を片づけて、神の律法は愛の律法であり、神の恩恵の表現であることを示された。彼はこの律法の原則に従うことの中に、人類の幸福があり、同時にそれは人類社会の基礎となり骨組みとなって、安定をもたらすものであることを示されたのである。

神の律法は、専横な要求をするどころか、かえってそれは、人類を守るための囲いとして、また楯として与えられているのである。律法の原則をうけ入れる者はだれでも悪から守られる。神に対する忠誠心の中には、人に対する忠誠心が含まれている。このように律法はひとりびとりの人間の権利と個性を擁護する。それは、上位の者の圧迫と下位の者の不服従を防ぐ。律法は、現世のためにも来世のためにも人の幸福を保証する。律法は、これに従う者にとって永遠の生命の保証である。なぜならそれは永遠に保つ原則の表現であるからである。(教育 75,76)

義は、神の偉大な標準、すなわち十誡によってのみ、定義づけることができる。品性を量る規則は他にない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1895年1月20日)

新しい従順な心

「わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。」
(ヘブル 8:10)

もしわたしたちが戒めの遵守者になることが可能でないとすれば、なぜ〔神は〕ご自分の十誡への服従を、ご自分を愛する証拠となさるのであるのか。(パイブル・コメンタリ[E.G. 初刊本]I 巻 1092)

イエス・キリストを通して、知恵と恵みと力を得る道が開かれた。このお方は万事における模範であられる。真理のメッセージを奉じる人々が、ごくはじめに学ぶべき教訓は、キリストと結合し、このお方の恵みの力を魂に受けて、品性のすべてのかすを溶かし去り、思いでさえもとりこにすることである。これは、キリストがご自分の律法を心に印象づけ、そこに記すことができるために、心を服従させることを通してなされなければならない。これはすべての魂のために成し遂げられなければならない働きである。それによって真理を愛する人がみな、聖化し、精錬し、高尚にする真理の力を、品性の上に、精神に、言葉に、そして行動にあらわすのである。(南アフリカへの証 28)

聖霊の働きの必要性がすべての人によってはっきり理解されるべきである。全存在を新たに聖化するのを働きとするこの御霊がキリストの代表として受け入れられ、大事にされなにかぎり、人間に委ねられてきた重大な真理は、思いに及ばずその力を失う。真理の知識を持つだけでは十分ではない。わたしたちは自分たちの意志を神のみ旨に調和させつつ、愛のうちに歩み、働くべきである。このようにする人々について主は次のように宣言しておられる、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう」(ヘブル 8:10)。神は、この変化の働きにおいて、力強い全能の執行者であられる。ご自分の聖霊によって、このお方はご自分の律法を心に記される。

こうして神と人との間の神聖な関係が新たにされる。〔ヘブル 8:10 引用〕。「人がわたしのすがたを表すことができるために、惜しみなく与えないような属性はわたしの性質にない。」わたしたちが自分たちのうちに神に働いていただくとき、罪を抱くことはない。清めの炉で、すべてのかすは燃え尽きる。(レビュー・アンド・ヘルト' 1902年6月10日)

4月21日

聖潔に至る実を結ぶために学ぶ

「あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。」(ローマ 6:20～22)

世界の救いの唯一の望みは、イエス・キリストだと信じて公言する人々が、誤謬の闇の中にいる人々にこのお方を知らせるために、あまりに何もしないのを見て、全宇宙はどのように思うであろうか。すべての人の判決が永遠に下るとき、恩恵期間の間に自分たちの仲間に対してこれほど偉大な救いをなおざりにする人々を待ちうけている運命について、警告してこなかった人々の罪は、どれほど巨大に見えることであろう。そのとき、クリスチャンだと公言する人々ができたはずでありながら、しなかったことについて、どんな啓示がなされることであろう。彼らは自分たちの道具を通して、神と共に働く共労者になっていれば救えたはずの魂を、どれほどたくさん見ることであろう。神を愛すると公言する多くの人々は、氷のような雰囲気の中に閉じ込められ、キリストの愛が一度も彼らの魂を溶かしたことがないかのようである。(ビュー・アツド・ハルド 1896年7月21日)

何であれ愛情を分かち、魂から神への最高の愛を取り去るものは、一種の偶像だと考えて間違いない。わたしたちの肉の心は自分たちの偶像にしがみつき、それを持ち歩こうとする。しかし、わたしたちはそれらを捨てない限り、前進することはできない。なぜなら、それらはわたしたちを神から引き離すからである。教会の偉大なる頭は、ご自分の民を世から選び出し、彼らに分離するよう要求される。このお方はご自分の戒めの精神が彼らをご自分に引き寄せ、世の要素から引き離すようにと意図しておられる。神を愛し、このお方の戒めを守ることは、世の娯楽と友情を愛することとはほど遠い。(教会への証 1巻 289)

わたしたちは目覚めなければならない。そしてイエスのうちにあるがままの真理を理解しなければならない。わたしたちは不愉快な働きを避けようとしないうちに、神のみ言葉に勧告を求める必要がある。自分たちが神と共に働く共労者であることを悟るとき、半分無関心にみ約束を語ることはない。かえってそれらはわたしたちの心のうちに燃え、わたしたちの唇に火をとますのである。(サザン・ワー 56)

石の心が溶かされる

「そしてわたしは彼らに一つの心を与え、彼らのうちに新しい霊を授け、彼らの肉から石の心を取り去って、肉の心を与える。これは彼らがわたしのために歩み、わたしのおきてを守って行い、そして彼らがわたしの民となり、わたしが彼らの神となるためである。」(エゼキエル 11:19,20)

あなたは自分の心がかたくなに見えるからといって失望してはならない。すべての障害、すべての内なる敵は、ただあなたがもっとキリストを必要とするだけである。このお方は石の心を取り除き、あなたに肉の心を与えるために来られた。あなたの特別な欠点に勝利するための特別な恵みを求めて、このお方を仰ぎなさい。誘惑に攻められるとき、断固として邪悪な促しに抵抗しなさい。自分自身の魂に次のように言いなさい。「わたしはいかにしてわたしの贖い主を辱めることができよう。わたしは自らをキリストにお捧げしたのである。サタンの働きをするわけにはいかない。」すべての偶像を犠牲にし、すべての大事にしている罪を取り除くための助けを求めて、愛する救い主に叫びなさい。信仰の目で御父の前に立ち、あなたのために嘆願しておられるときに、ご自分の傷ついたみ手を差し出しておられるイエスを見なさい。あなたの尊い救い主を通して、あなたに力がもたらされることを信じなさい。……

もしわたしたちが自分の思いをもっとキリストと天の世界を考えるようにするなら、主の闘いを戦う時の強力な励みと支持を見出す。わたしたちが、すぐにも自分たちの家郷となるより良い地の栄光を考えると、世の誇りと愛はその力を失う。キリストの麗しさのほか、すべての地上の魅力はあまりにも価値がないように見える。(きよめられた生涯 90,91)

十誡の「せよ」、「してはならない」というのは、もしわたしたちが宇宙を統治している律法に従順を捧げるなら、わたしたちに保証された十の約束である。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」(ヨハネ 14:15) ……

シナイの山上で、キリストによって語られた十の聖なる規則は、神のご品性の啓示であり、このお方が全人類の嗣業に対する統治権を持っておられるという事実を世に知らしめるものであった。人間に提示しうる最大の愛の十の規則をもつこの律法は、約束のうちに天から語りかける神のみ声である。「こうしなさい、そうすればサタンの統治と支配下に陥ることはない。」律法には、たとえそう見えたとしても、否定的なところはない。それは行い、生きよ、というものである。(パイブル・コメント [E.G. 初作コメント] 巻 1105)

4月23日

新しい心とは変化した生活である

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わがために歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。」
(エゼキエル 36:26,27)

神のみ言葉の中に記録されている最も熱心な祈りの一つは、ダビデが次のように祈った時の祈りである、「神よ、わたしのために清い心をつく〔つ〕……てください」(詩篇 51:10)。そのような祈りに対する神の応答はいつも、わたしは新しい心をあなたがたに与える、である。この働きは有限な人間はだれもできない。男女は、まず真のクリスチャン経験をこの上なく熱心に求めることから始めなければならない。彼らは聖霊の創造の力を感じなければならない。彼らは天の恵みによって柔らかくやさしく保たれた新しい心を受けなければならない。利己的な精神は魂から清められなければならない。彼らは熱心に心のへりくだりをもって働き、各々導きと励ましを求めてイエスを仰ぐのである。そのとき、建物は、互いにぴったりと合い、主にある聖なる宮へと成長していく。

青年は特にこの「新しい心」という言葉につまずく。彼らはそれが何を意味するのかかわからない。彼らは自分たちの感情に何か特別な変化が起こることを期待する。これを彼らは改心と呼ぶ。この過ちをめぐって、「あなたがたは新しく生れなければならない」という表現を理解せずに(ヨハネ 3:7)、何千もの人々がつまずき、破滅した。

サタンは人々が感情の高揚を感じたから、自分たちは改心したと思わせる。しかし、彼らの経験は変わらない。彼らの行動は以前と同じである。彼らの生活は少しも良い実を見せない。彼らはしばしば長く祈り、自分たちはこれこれこういう時にこんな気持ちになったということをいつも言及している。しかし、彼らは新しい生活を送らない。彼らは欺かれている。彼らの経験は感情より深くならない。彼らは砂の上に建てており、逆境の風が吹くとその家は一掃されてしまう。……

イエスが新しい心について語られるとき、このお方は思い、生活、そして存在全体を意味しておられる。心の変化があるということは、世から愛情をひきあげ、それらをキリストへ結びつけるということである。新しい心を持つということは、新しい思い、新しい目的、新しい動機を持つということである。新しい心のしるしは何であろうか—変化した生活である。(わたしたちの高い召し 159)

自由にされる：ある一例

「また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ 8:32)

真理はそれを愛し、それを通して聖化される者を自由にする。(わたしたちの高い召し 33)

わが兄弟よ、わたしはあなたにお願いする、自由な人となりなさい。……

世に必要とされている男女、すなわち力と大いなる栄光をもって主がまもなく来られるというメッセージを宣布する男女に責任が負わされている。この警告が宣布されなければならない。この時代のための真理を知っている人々は、それを持って出ていき、まだ知らない人々に伝えなければならない。彼らは偉大な伝道者キリストと協力しなければならない。このお方のみ働きは人々を神に引き寄せることであった。このお方はご自分を隠すことに同意なさり、ご自分の神性を人性の衣の下に隠された。

わたしは……自分たちの信仰を失いかけ、また自分たちの初めの愛を失いかけている人々にお願いする。信仰にしっかりと確立されていさえすれば、携わることのできるはずのみ言葉のご用や尊い伝道の働きができないようにおびやかす墮落させるような理論の感化力から回復したらすぐに、そこを離れて、なおざりにされていた伝道地で神のみ働きに取りかかりなさい。行動は、言葉よりも、大きく語る。……

多くの人々の信仰は、自分の心を神のみ前にへりくだらせ、次のキリストの任務を果たしに出ていくときによみがえる、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ 16:15)。(パトル・クーク・ラズ 114)

ああ、わたしたちの兄弟姉妹が真理の価値を正しくはかることができれば! ああ、彼らがそれによって聖化されるならば。ああ、彼らがこの真理を他の人々に伝えるという責任が自分たちにあることを自覚できれば。しかし、彼らは真理に生きる重要性、すなわちキリストのみ言葉を行う者になる重要性を感じない。多くの人々は自己満足している。彼らはキリストの弟子たちを活気づけるべき伝道精神に満たされていない。もし彼らが他の人々のために魂の苦しみを持つということがどういう意味かを知っているなら、神の御使たちは彼らを通して真理の知識を伝えるために働くことであろう。彼らは真理を知って、真理は彼らを自由にするであろう。金銭が……新しい伝道地を開くのに用いられるであろう。(教会への証 8 巻 151,152)

4月25日

本当に自由

「もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。」(ヨハネ 8:36)

神の律法の判決の力は、わたしたちがすることにばかりではなく、しないことにまで及ぶ。わたしたちは神の要求なざることをせず、除外することにおいて、自らを正当化してはならない。わたしたちは悪をやめるばかりでなく、善を行うことを学ばなければならない。(レクテッド・メッセージ 1巻 220)

全身に及ぶキリストの御愛が人を活気づける力となるのである。それはすべての重要な部分すなわち脳や心臓や神経にやす力をもって触れる。それによって人間の最高のエネルギーが覚せいされ、活動するようになる。これは生命力を破壊するような罪と悲しみ、憂慮や心労から人間を解放する。そして平静さと落ち着きを与える。またそれはこの世の何ものも破壊することのできない喜び、すなわち聖霊による喜び、健康的なまた生命を与える喜びを心の中に植えつける。(ミストリー・オブ・ヒーリング 85)

しっかりした力のある人間が必要とされている。障害物がすべて取り除かれ、前途が平坦になるまで待っていない人、落胆した働き人を発らつとした元気をもって鼓舞する人、その心はクリスチャンの愛であたたく、主の働きをするにふさわしいじょうぶな手の持ち主、こう言うたぐいの人を要するわけである。伝道に従事している人の中には弱い、無気力な、勇気のない、失望しやすい人がいて、奮発心がなく、なんでもやろうという熱意を起す精神と力に欠けて、積極的な性格がない。成功したいと思う者は勇敢で希望にみちていなければならない。消極的な長所だけではなく、積極的な長所も養わなければならない。怒りをそらす柔らかい答を与えると同時に悪に抵抗する英雄的勇気も持っていないなければならない。万事に耐える愛を持つとともに、その感化を決定的な力とする強い性格が必要である。……

この柔弱、優柔不断、無能力に勝利しなければならない。真のクリスチャン的性格には、逆境におかれても変ったり、負けたりすることのない不撓不屈なものがある。わたしたちの精神には背骨がなくてはならない、すなわち、おせじ、わいろ、脅迫などをもってすることのできぬ高潔さが必要である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 483,484)

正しいことをなす奉仕

「罪から解放され、義の僕となった」(ローマ 6:18)

わたしがはじめに魂のための重荷を感じたのは、14歳を少し過ぎたときであった。しかし、ああ、わたしは自分の若い仲間たちが正しい道に導かれるために何と言えれば良いかを知るために、どれほど神に嘆願したことであろう。わたしは自分が成功しなければならないと感じた。わたしは主人であるお方のために働かなくてはならないから、神が知恵を下さるはずだと感じた。わたしが16歳のとき、公に活動的な働きを始めた。わたしは自分の働きに裁きにおいて直面しなければならないこと、またわたしがどのようなやり方でこの働きをしたかが天の書に記されることを感じた。わたしは神と格闘し、このお方がわたしに知恵を下さるよう、このお方の働きがわたしの手のうちで傷つけられるのではなく、受け入れられるものとなるようにと魂を悩ませた。40年間以上、わたしは自分の主人であられるお方のために活動的な働きに従事してきたが、今日、わたしは他の人々に真理を提示するための知恵を神に求める必要を、16歳の時に感じたのとまったく同じように感じる。そしてわたしが民に語ろうとするたびに、いつも自分がなすべきほど完全に働きをなすことができなかつたことを深く感じる。わたしはより多くの光を反射させていないがゆえに深くへりくだり、わたしがより大きな完全さをもってこのお方の働きをなすことができるように、より多くの恵みとより多くの知恵を与えて下さるようにと神に嘆願する。……

現代の真理を受け入れるすべての人にとって重要不可欠なことは、品性の完全と魂をキリストに勝ち取る際の徹底さを目指すことである。自分の働きにおいて、前進し、向上することを決心しなさい。そうすればあなたは絶えず進歩を遂げるようになる。なぜなら、この光を受けてきた人々は、前進するにつれ、自分たちがもっとキリストの霊を自分自身の生活と品性にもたらさなければならないこと、さもなければ彼らはそれを他の人々の生活にもたらすことができないことを感じるからである。そしてあなたは自分の友人たちとの会話の中で自分の言葉が彼らにとって祝福となるようにすべての機会を活用することができる。あなたが真理を彼らに興味を起こさせるような方法で提示できるように、あなたの思いに仕事をさせなさい。あなたが彼らの前に示すことのできる聖句の最も興味深い部分をとらえ、まっすぐに要点を話し、彼らの注意をとらえるように努め、彼らを主の方法によって教えなさい。(ビュー・アンド・ヘルド 1887年7月26日)

4月27日

気をそらすものをどう対処するか

「兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。」(ガラテヤ 5:13)

わたしたちは最も厳肅な時代に生存している。サタンと悪天使たちは徒党を組んで、強力な力でわたしたちに敵対している。世は彼らを助けるために彼らの味方になっている。そしてもっとも嘆かわしい事実は、重要で厳肅な真理を信じると主張している自称安息日遵守者が、自分たちの力を闇の権力の感化力と結託させて、気をそらさせ、妨げ、あるいは〔キリストが〕ご自分の選ばれた器に築き上げるように要求されたものを壊していることである。ある者は、直接的に壊しはしないが、間接的に壊す。彼らは無関心にながめ、疑いや疑惑や恐れを口にし、疑い深いトマスよりも大きな証拠を必要としている。彼らは熱心さをもって働くために自分の手をかけることも、また築き上げるために自分たちの精力を働かせることも、しようとしなしい、しないのである。彼らの感化力は神の民の間における前進と改革の働きを遅らせるものとして記録されている。

御使は言った、「キリストと共に集めない者は、散らす者である」。中立などという立場はない。すべての人は感化力を持っており、その感化力は是非に物を言うのである。(原稿III-5 巻 61,62)

さて、わたしたちは何が罪であるかを知りたいのである—それは神の律法の違反である。これが聖書の中で与えられている唯一の定義である。であるから、わたしたちは神に導かれていると主張しながら、このお方とこのお方の律法から正反対に離れていく人々は、聖書を調べていないことが分かるのである。しかし、主はご自分の民を導かれるであろう。……

サタンが自分はキリストだと主張しながら、あなたの目の前で奇跡を働く時が近づいている。そしてもしあなたの足がしっかりと神の真理の上に固まっていないなら、そのとき、あなたは自分の基礎から導きだされてしまう。……

あなたは失望しても、心を弱くしてもならない。ヨシュアに与えられたみ言葉は、「強く、また雄々しくあれ」であった(ヨシュア 1:9)。なぜなら、あなたの前には大きな働きがあるからである。そして彼の成功は、彼の神への服従にかかっていた。誘惑者があなたの気をそらすために来るとき、もしあなたの思いが聖句で満ちているなら、あなたは、わたしは主に対してこの悪と罪を行うことはできない、と言うのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1888年4月3日)

わたしたちはどちらの鏡を見ているか？

「完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」(ヤコブ 1:25)

デュッセルドルフ〔ドイツ〕で、わたしたちは〔鉄道の〕車両を変え、その駅で二時間待たなければならなかった。ここでわたしたちは人間の性質を研究する機会を得た。婦人たちがやって来て、自分たちの外套を着替え、あらゆる角度から調べて、自分たちの衣服が問題ないかどうかを見た。それから、自分たちの顔にさらに粉をはたかなければならなかった。人の目から見て最高に見えるようにとの目的のため、自分たちの衣服を自分たちの満足いくように整えるために、長い間、鏡の前にとどまった。わたしは神の律法、すなわち罪人が自分の品性の欠点を発見するために見るべき大なる道徳的な鏡について考えた。もし多くの人々が鏡を使って自分たちの外見を勤勉に厳しく調べるように、すべての人が品性のすべての欠点を正し、改革する目的で、神の律法―品性の道徳的標準―を研究したなら、彼らのうちになんという確かな変化が起こることであろう。「おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう」(ヤコブ 1:23,24)。……

神の道徳的な鏡、すなわちこのお方の律法を見るとき、品性に欠点がある者として自分を見る人々が多い。しかし、彼らはあまりにも「あなたがしなければならぬことは、信じることです。ただイエスがすべてをして下さったことを信じさえすれば、あなたのすることは何もありません」というのを聞いてきたために、あえて鏡を見てみた後で、自分の欠点をみな持ったまま、「イエスがそれは全部して下さった」と口にしながら、すぐさまそこから離れてしまう。これらの人々はヤコブが示した比喩―自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう人―によって表されている。……信仰と行いは、……世俗、誇り、虚無の潮流に逆らって用いられなければならない二つのオールである。そして、もしこれらが用いられなければ、小舟は潮流と共に下方へ向かって流されてしまう。……神はわたしたちが内なる飾りを備えるために、わたしたちが外面を整えるときと同じくらい注意深く心を整えるのを助けて下さる。(レビュー・アンド・ヘルド 1887年10月11日)

4月29日

型（模範）に焦点を当てる

「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」
(詩篇 119:18)

わたしたちは自分たちの前に絶えず型であるお方をおき、わたしたちを罪の奴隷状態から贖うために払われた無限の犠牲を熟考しなければならない。もしわたしたちが鏡を見るときに、自ら責めを見出すならば、あえてさらに不法を犯すのではなく、方向転換し、小羊の血で自分たちの品性の衣がしみのないものとなるように洗おう。ダビデがしたように、叫ぼう、「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」(詩篇 119:18)。人類の祝福となるようにと神が時間と資金を委ねてこられたが、それらの賜物を自分自身や子供たちのために不必要に浪費してきた人々は、神の裁判所にて恐るべき会計報告書に直面することになる。……

世の感化力に屈してきた安息日遵守者の中の人々はテストされることになる。終わりの時代の危険がわたしたちに迫っている。そして多くの人々が予期していなかった試練が、神の民だと公言する人々の前にある。彼らの信仰の真偽が試される。多くの人々は、誇りと虚無と娯楽の追及において世俗と結合しながら、なお自分たちはクリスチャンでいられるとうめぼれてきた。しかし、彼らを神から引き離し、世の子としたのはそのような放縦であった。キリストはわたしたちにそのような模範は残されなかった。ただ自分を否定する人々、謹厳と謙遜と聖潔の生涯を送る人々がイエスに真に従う人々である。そしてそのような人々は、世を愛する人々の社会を楽しむことができない。

多くの人々は、未信者に感化力を及ぼすために、世のように装うが、彼らはこの点において悲しい間違いを犯している。もし彼らが真の救う感化力を持ちたいならば、自分たちの告白通りに生き、自分たちの信仰をその義なる行為によって示し、クリスチャンと世俗の人々の区別をはっきりさせなさい。言葉、衣服、行動が、神のために語るべきである。そのとき聖なる感化力が彼らの周囲にいるすべての人に降り注ぎ、未信者でさえ、彼らがイエスと共にいたことを知るようになる。……彼らに自分たちの告白通りに生き、それによって謙遜な型であられるお方を模倣させなさい。(教会への証 4 巻 632 ~ 634)

4月30日

自由な律法によって裁かれる

「だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。」(ヤコブ 2:12)

天への道は、イエス・キリストを通してである。このお方は世にあらわれるすべての人を照らす光であられる。このお方はわたしたちに最も尊い真理を与えて下さった。しかし、自分たちにとって、知り、実践することが重要不可欠であることを正しく評価していない人々が多くいる。神の民は、重要でない脇の問題に貴重な時間を割かないようにしましょう。その代わりにキリストと真理への愛が彼らの心を一致と愛のうちに結びつけていること、またこれが彼らを神の戒めへの服従に導いていることを表すために奮闘しよう。

主は将来の生涯におけるわたしたちの幸福のために、あらゆる備えをして下さった。しかし、このお方はこれらの計画に関して何の啓示もしてこれなかった。だから、わたしたちはそれらについて思いめぐらせるべきではない。……

命に関わる重要性をもった事柄が神のみ言葉の中ではっきりと表されている。これらの主題は、わたしたちの最も深い思想の価値がある。しかし、わたしたちは神が沈黙してこられた事柄に関して、探り調べるべきではない。神の民が理性的に考えられるよう、神が助けて下さるように。わたしたちに確信のない事柄について疑問が起こったときには、「聖書は何と言っているか」と尋ねるべきである。

キリストはわたしたちの救いに重要不可欠な真理を何も控えてはおられない。明らかにされていることはわたしたちとわたしたちの子らのためであるが、わたしたちは明らかにされていないことに関して、自分たちの想像力によって教理を立案してはならない。何度も繰り返し、これらの重要でない主題が議論されてきたが、これらの議論がかつて少しでも役に立ったことはなかった。わたしたちは、注意を奪われ、自分たちに与えられたメッセージの宣布からそらされるのを許してはならない。……わたしたちは重要でない主題に関して議論に入るようにと命じられてはいない。わたしたちの働きは思いを神の律法の偉大な原則に導くことである。

裁きの時に問われる質問はただ一つ、「彼らはわたしの戒めに従順であったか」である。重要でない問題をめぐる些細な争いや論争は、わたしたちの民が必要としていない教育である。その代わりに彼らに次の祈りに応えさせなさい、「みんなの者が一つとなるためであります。……それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ 17:21)。(西インドメッセンジャー 1912年7月1日)

ちろん、そうでした。しかし、神さまは、アダムはきつと死ぬであろうとご自身が言われた通り、彼が 930 年生きた後、彼が死ぬのを許されました。

セツはどうでしょう？彼も特別に愛されたのではないのでしょうか。その通りです。しかし、神さまは彼もまた、912 年間生きた後、死ぬのを許されました。そして他の人たちも同じです。神さまは彼らを愛されましたが、彼らが死ぬのを許されたのです。

しかし、エノクについては、違っていました。神は彼を非常に愛していたので、そのまま死なせることができませんでした。ですから、神さまはご自分と永遠に生きるために、彼を取られたのです。

なぜでしょうか。聖書はそのことについて、それほど多く述べていません。しかし、わたしたちが理解するには十分なだけ告げています。「エノクはメトセラを生んだ後、三百年、神とともに歩み、男子と女子を生んだ。エノクの年は合わせて三百六十五歳であった。エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。」

ここに秘訣があります！彼は神と共に歩みました。これこそ、最初から神さまがアダムにしてほしかったことです。神さまのことを忘れてさまよい出るかわりに、エノクと同じように、アダムがご自分と共に歩んでいたなら、神さまがアダムのためにしてあげないことは何もなかったことでしょう。たしかに、彼は決して死ぬことはなかったでしょう。

それは、セツ、エノス、カイナン、またそれ以外のすべての人の場合も同様です。神は彼らがみんなご自分と共に歩むことを望んでおられましたが、だれひとり、神さまの期待に応える人はあられませんでした。

山芋のかば焼き風

■材料

山芋	300g
焼き海苔	2枚
アーモンド	5～6粒
片栗粉	大さじ3
塩	ひとつまみ

(たれ)

しょう油	大さじ1杯×2
黒糖	小さじ1×2
はちみつ	大さじ1×2
昆布顆粒出し	小さじ1/2×2
水	大さじ1×2

■作り方

1. アーモンドを包丁で細かく刻み、山芋をすりおろします。
 2. 塩を加え、スプーンで空気を含ませるようにしっかり混ぜます。
 3. 片栗粉を加えてよく混ぜます。
 4. アーモンドを加えてよく混ぜます。
 5. 正方形の焼き海苔を半分に切り、4つにします。
 6. 焼き海苔4枚にそれぞれとろろをのせて広げます。その際、焼き海苔のまわりは余白を残しておきます。
 7. ごま油(分量外)をフライパンに入れて中火にかけ、焼き海苔の面を下にして2枚ずつフライパンに並べ、2～3分焼きます。表面にふつふつ気泡が出てきたら返してさらに2～3分焼きます。
 8. フライパンから取り出して、とろろの面に、ヘラで縦一本の深い切り込みを入れ、左右にフォークで細かい筋をつけます。
 9. たれの材料をすべてフライパンに入れ、しっかり煮立たせます。山芋側を下にしてたれをしっかり絡ませ、一度軽くひっくり返して、完成です。
- ※フライパンで二回に分けて焼く際、同じ材料のたれをもう一度煮立たせてください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

- 福音の宝
- 聖所真理

お申込先 : sdarm.shomaru@gmail.com

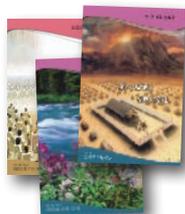


書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第20話

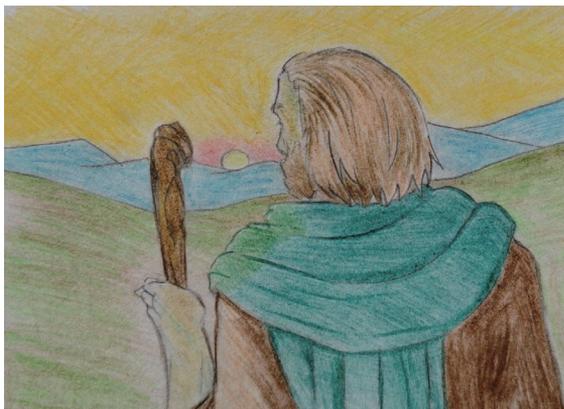
天へ歩いていった人(1)

もしあなたが、わたしの提案したようにこれらの線を引いたなら、ある線は他のすべての人よりもずっと短いことに気づくでしょう。それはエノクの生涯を記した線です。彼の父親は962歳まで生き、また息子は969歳まで生きましたが、エノクが生きたのはたった365年でした。

なぜこうなったのでしょうか？彼は病気になって早くに死んだのでしょうか？

そうではありません。実際には、彼は死んだことがありませんでした。エノクに関して、これはすばらしいことです。聖書は、「神が彼を取られた」と述べています。

これは考えてみるべきです。神さまはすべての人をこのように扱われるわけではありません。事実、わたしたちが知っているかぎり、世界の全歴史を通じて、二人—エノクとエリヤーだけが死を見ないでこのように取られたのでした。



なぜ神さまはエノクを取られたのでしょうか。彼を例外としたのには、きっと何かとても良い理由があるにちがいません。この人には、神が彼を当時の他のすべての人々よりも愛

するようにさせるものが何かあったのでしょうか。

でも、とあなたは言うかもしれません。神さまは、ご自分の最高傑作であったアダムも、とてもとても大事に愛しておられたのではないの？と。も

(67 ページに続く)